

令和7年度第1回
モニターアンケート結果報告書

次期板橋区基本構想中間答申への
意見について

— 目 次 —

ページ

アンケート概要		1
あなたご自身のことについて		
問1	あなたの性別をお答えください。	2
問2	あなたの年齢をお答えください。	2
問3	あなたの職業をお答えください。	3
問4	あなたのお住まいの地域をお答えください。	3
問5	区内にお住まいの年数をお答えください。	4
問6	あなたも含む同居者の人数をお答えください。	4
板橋区での暮らしについて		
問7	あなたは、板橋区で暮らしていて、幸せだと感じますか。10点満点でお答えください。	5
問8	あなたは、板橋区での暮らしに「愛着」を感じますか。	5
問9	あなたは、板橋区での暮らしに「誇り」を感じますか。	6
問10	あなたの板橋区に対する「愛着」や「誇り」が、より高まるには、板橋区での暮らしがどうなれば良いと思いますか？（3つまで回答可）	6
板橋区からの情報について		
問11	あなたは、区からの情報が十分に伝わっていると思いますか。	7
問12	あなたは、板橋区に関する情報をどのように得ていますか。（複数選択可）	8
板橋区のブランドについて		
問13	あなたが、すでに板橋区の「ブランド」になっていると考えるものはどれですか。（3つまで選択可）	9
問14	あなたが、今後板橋区の「ブランド」になりうると考えるものはどれですか。（3つまで選択可、Q13と同様の選択肢も選択可）	10
9つのめざす姿について		
問15	次期基本構想では、概ね10年後の9つの姿をめざし、取組を進めています。区の各政策の取組について、あなたの満足度（区のこれらの政策の取組状況について、どの程度満足感があるか）、重要度（区がこれらの政策に取り組んでいくことが、どの程度重要と考えるか）を10点満点でそれぞれご回答ください。	11～19
自由記述		
問16	今回の板橋区基本構想中間答申で気付いた点があれば自由にお書きください。	20～30

※ n(number of cases)は、その設問に対する回答者の総数を示しています。

質問によっては複数の回答を得たものがあります。

また、質問によっては、回答がなかった、もしくは、択一選択の質問に複数の回答があったため、総数について整合がとれていない部分があります。

1 アンケート概要

次期板橋区基本構想中間答申への意見について

2 調査目的

現在、板橋区では、次期「板橋区基本構想（以下、基本構想）」および「板橋区基本計画（以下、基本計画）」の策定を進めています。

基本構想とは、将来の板橋区の望ましいまちの姿を示す、区政の長期的な指針のことです。

基本計画とは、基本構想の実現のために、区がどんなことに取り組んでいくのかを示したものです。

これらの策定にあたっては、学識経験者や区内団体代表者、区議会議員、公募区民らで構成される「板橋区基本構想審議会」で議論を重ねており、審議会より中間答申が提出されたところです。

本アンケートは、当区の将来を見据えた「基本構想」および「基本計画」の策定にあたり、区民の皆様のご意見を広く反映させるために実施するものです。いただいたご意見を、基本構想の最終答申に向けた審議および今後の区政運営における参考資料として活用するため実施しました。

3 調査対象

- (1) いたばし・タウンモニター 54名
- (2) いたばし・eモニター 200名

4 調査方法

- (1) いたばし・タウンモニター 郵送またはインターネット回答
- (2) いたばし・eモニター インターネット回答

5 調査期間

令和7年5月23日（金）から令和7年6月13日（金）まで

6 アンケート作成部署

政策企画課

7 回答結果（回答率）

	回答数	回答率
タウンモニター	42人	77.8%
eモニター	141人	70.5%
計	183人	72.0%

8 その他

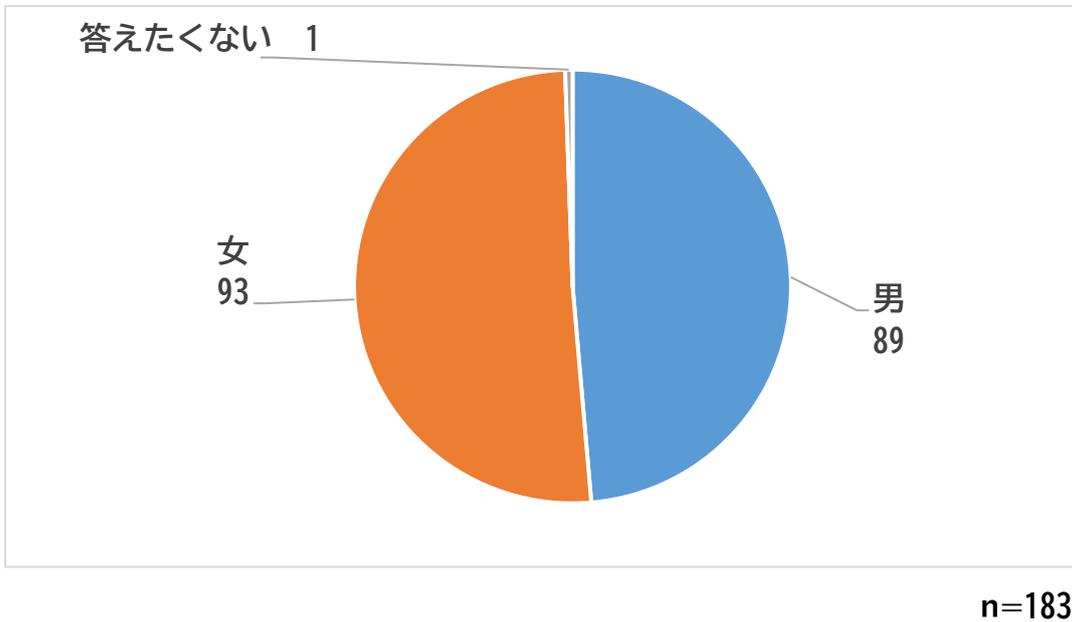
紙面の関係上、要約・省略をしているものがあります。

また、ご意見・ご要望等で、アンケートに関連のない内容等については、割愛しています。

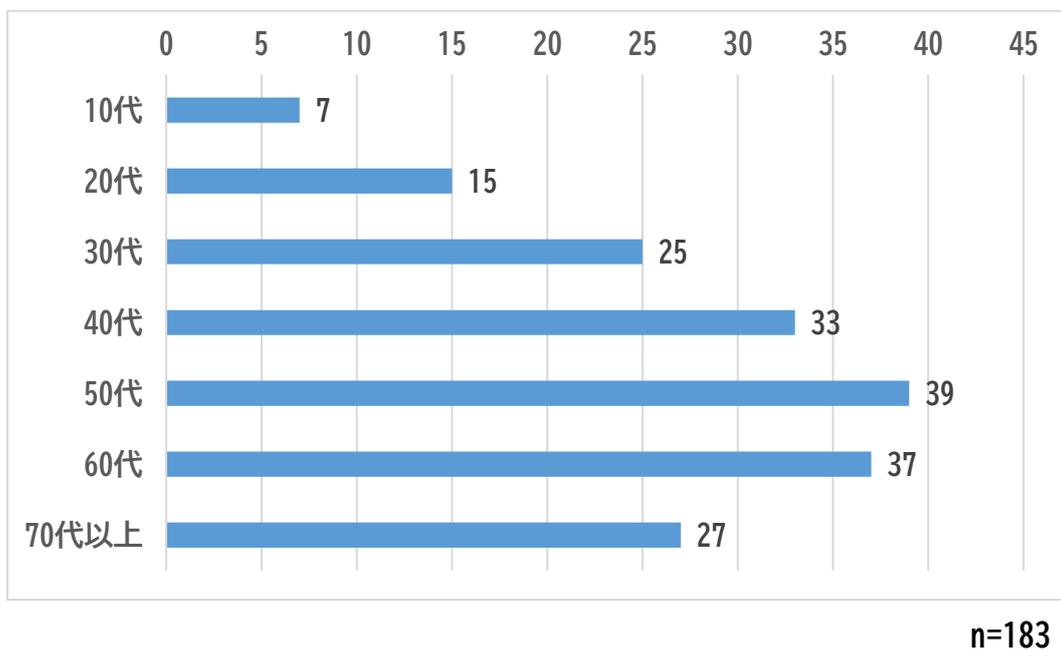
回答の比率（％）は、小数点第二位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100%にならない場合があります。

あなたご自身のことについて

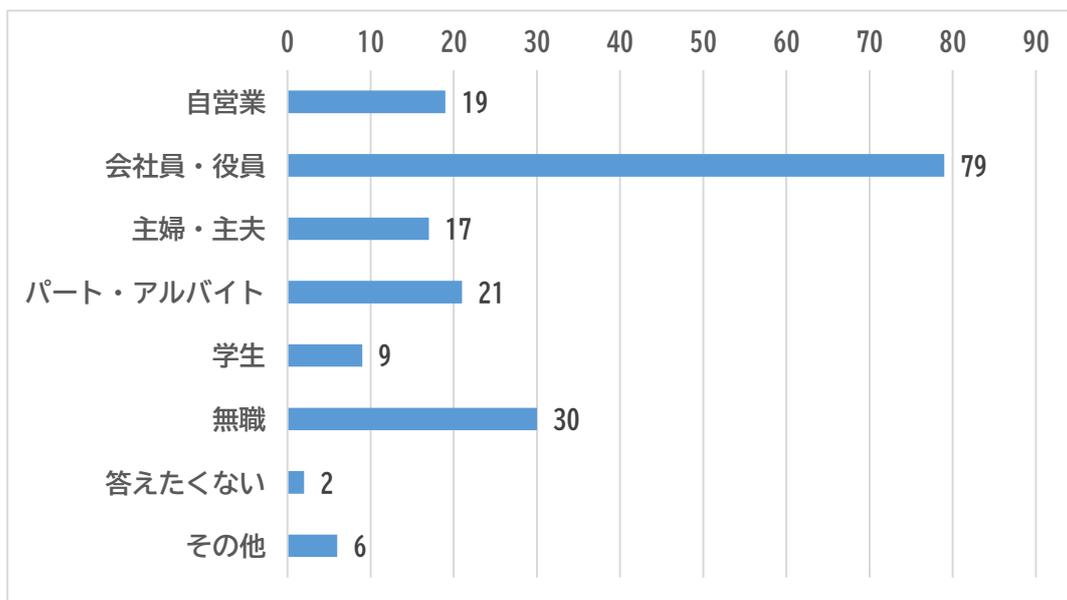
問1 あなたの性別をお答えください。



問2 あなたの年齢をお答えください。



問3 あなたの職業をお答えください。



n=183

《その他の回答》

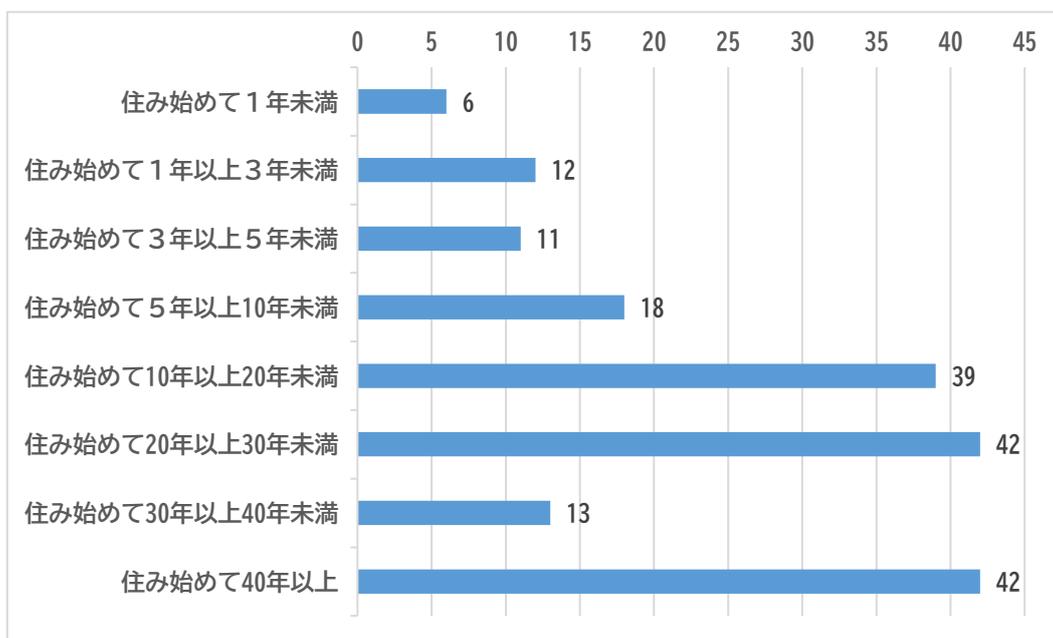
手話通訳・特別職公務員・会計年度任用職員・医師・嘱託職員・私立高校教員

問4 あなたのお住まいの地域をお答えください。

相生町	4	大山町	1	東新町	2	蓮根	5
赤塚	12	加賀	7	常盤台	5	氷川町	1
赤塚新町	4	上板橋	3	徳丸	8	東山町	1
小豆沢	8	熊野町	1	中板橋	1	富士見	1
泉町	1	小茂根	9	仲宿	2	舟渡	3
板橋	8	幸町	3	中台	3	本町	2
稲荷台	2	栄町	1	仲町	2	前野町	7
大谷口	4	坂下	14	中丸町	2	南町	1
大谷口上町	1	清水町	2	成増	11	向原	1
大谷口北町	6	志村	10	西台	2	大和町	1
大山金井町	2	高島平	12	蓮沼町	2	弥生町	1
						若木	4

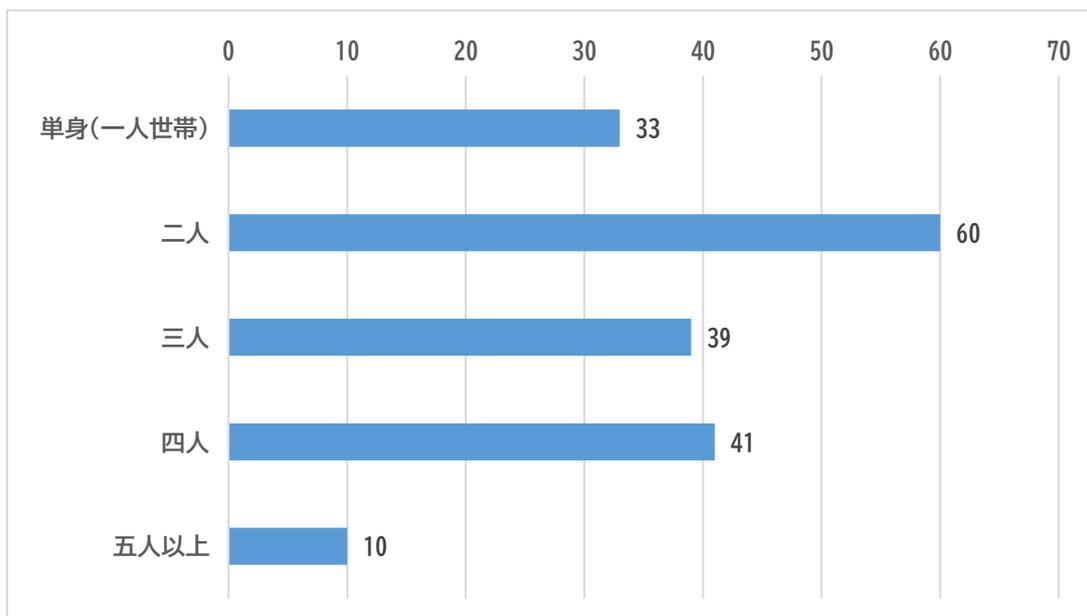
n=183

問5 区内にお住まいの年数をお答えください。



n=183

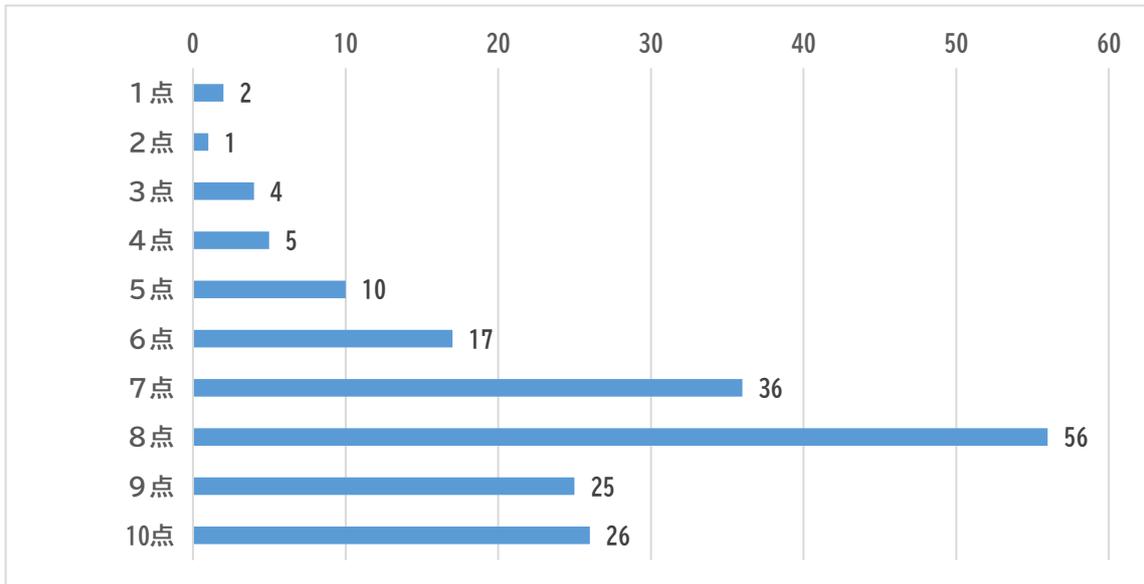
問6 あなたも含む同居者の人数をお答えください。



n=183

板橋区での暮らしについて

問7 あなたは、板橋区で暮らしていて、幸せだと感じますか。10点満点でお答えください。

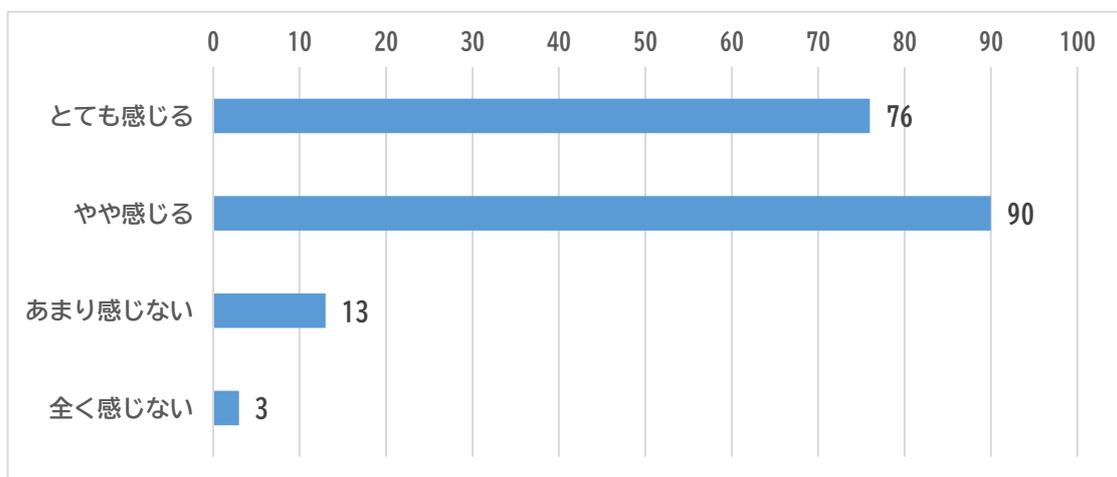


n=182

「8点」と回答した人が56人（30.8%）で最も多かった。

未回答=1

問8 あなたは、板橋区での暮らしに「愛着」を感じますか。



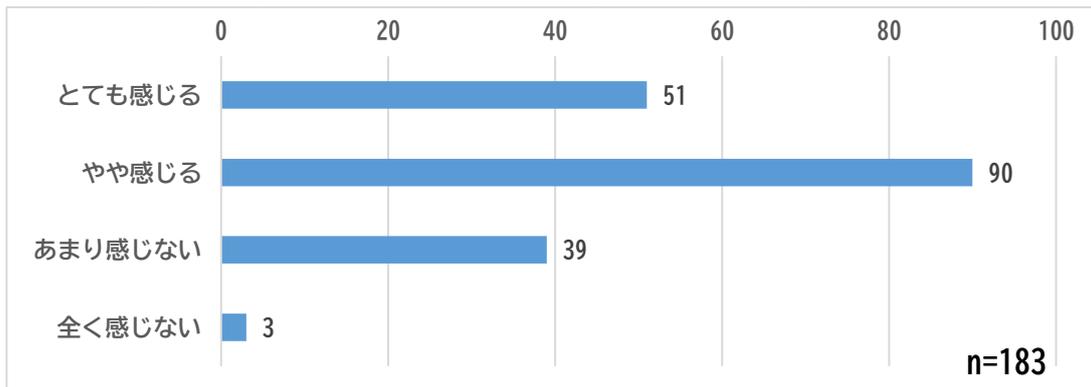
n=182

「やや感じる」と回答した人が90人（49.5%）で最も多かった。

未回答=1

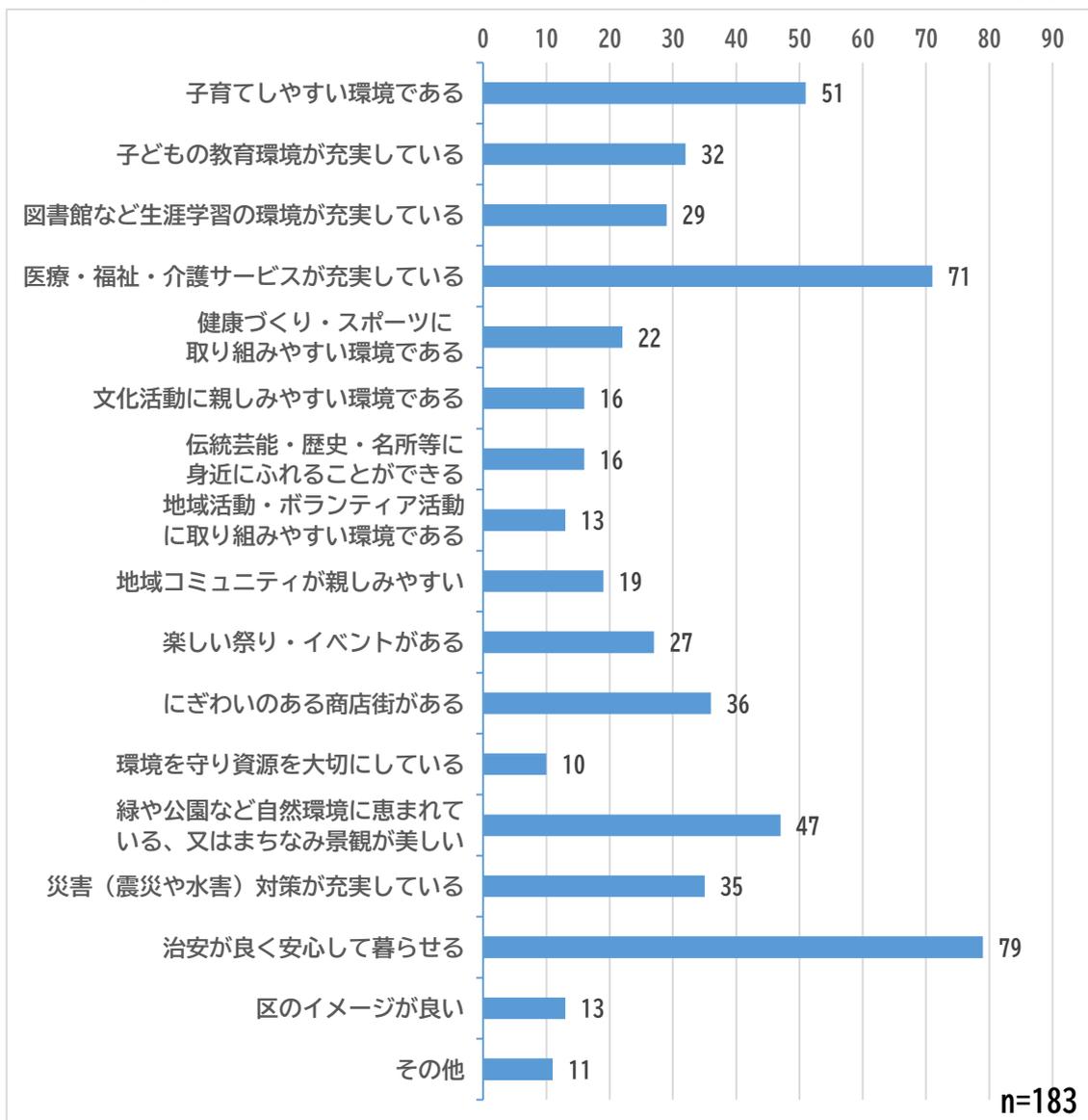
問9 あなたは、板橋区での暮らしに「誇り」を感じますか。

※「誇り」を感じるとは もっと板橋区での暮らしを良くしたい、そのために貢献したいと思ったり、板橋区の暮らしの良いところについて、他者に勧めたいと思ったりすること。



「やや感じる」と回答した人が90人（49.2%）で最も多かった。

問10 あなたの板橋区に対する「愛着」や「誇り」が、より高まるには、板橋区での暮らしがどうなれば良いと思いますか？（3つまで回答可）



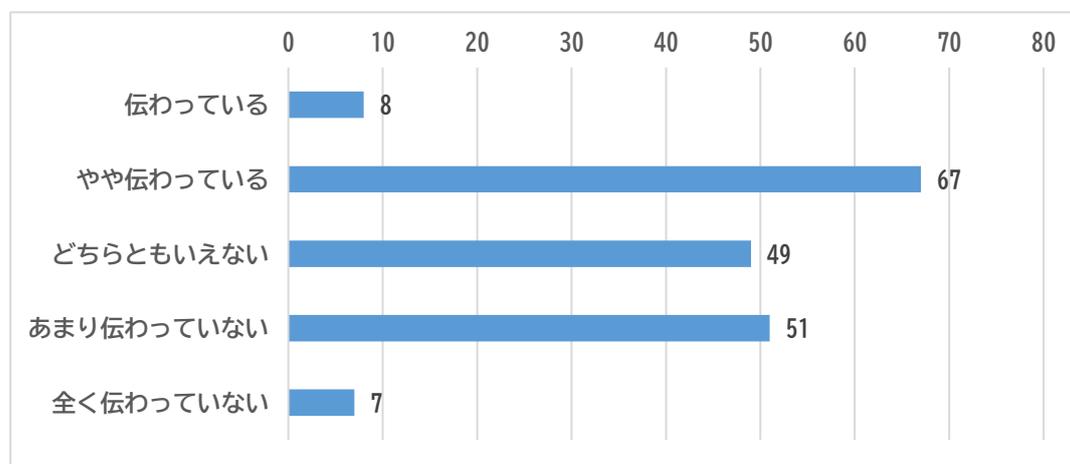
「治安が良く安心して暮らせる」と回答した人が79人（43.2%）で最も多かった。

《その他の回答》

若い世代が結婚し生活できる住居補助がある。
小中高校生を含む住民の方が法律・条例等を遵守し、ルール・マナーを守り良識を持っていただけるような施策・啓蒙が展開される。
経済活動が行いやすい。
区内の移動に必要な公共交通機関。都営地下鉄三田線、東武東上線、有楽町線～西武線の駅の間を結ぶ南北の交通機関が少なく、バス便に頼るしかないが、利用客の減少などがあると便数が減ったり、路線を廃止したりされてしまう。これらを補うためのコミュニティバスなどを充実するべきである。
1日過ごせる大型商業施設がある。
小規模商店が充実している（商店街とは別に）。
都立城北中央公園の拡張に伴い立ち退く人達が板橋区内に住み続けられるようにしてほしい。
納税者に対し定期的に還付が行われている/区の財源を投資した事業についての経済効果が数値で示されている/空き家の取り壊しが進んでいるなど。
若者向けの店、アニメイト、カフェ、外資系スイーツ店、ファッションビル、おしゃれな建物等があちこちにあること等。居酒屋が無いこと。
行政の活動が身近にあると良い。

板橋区からの情報について

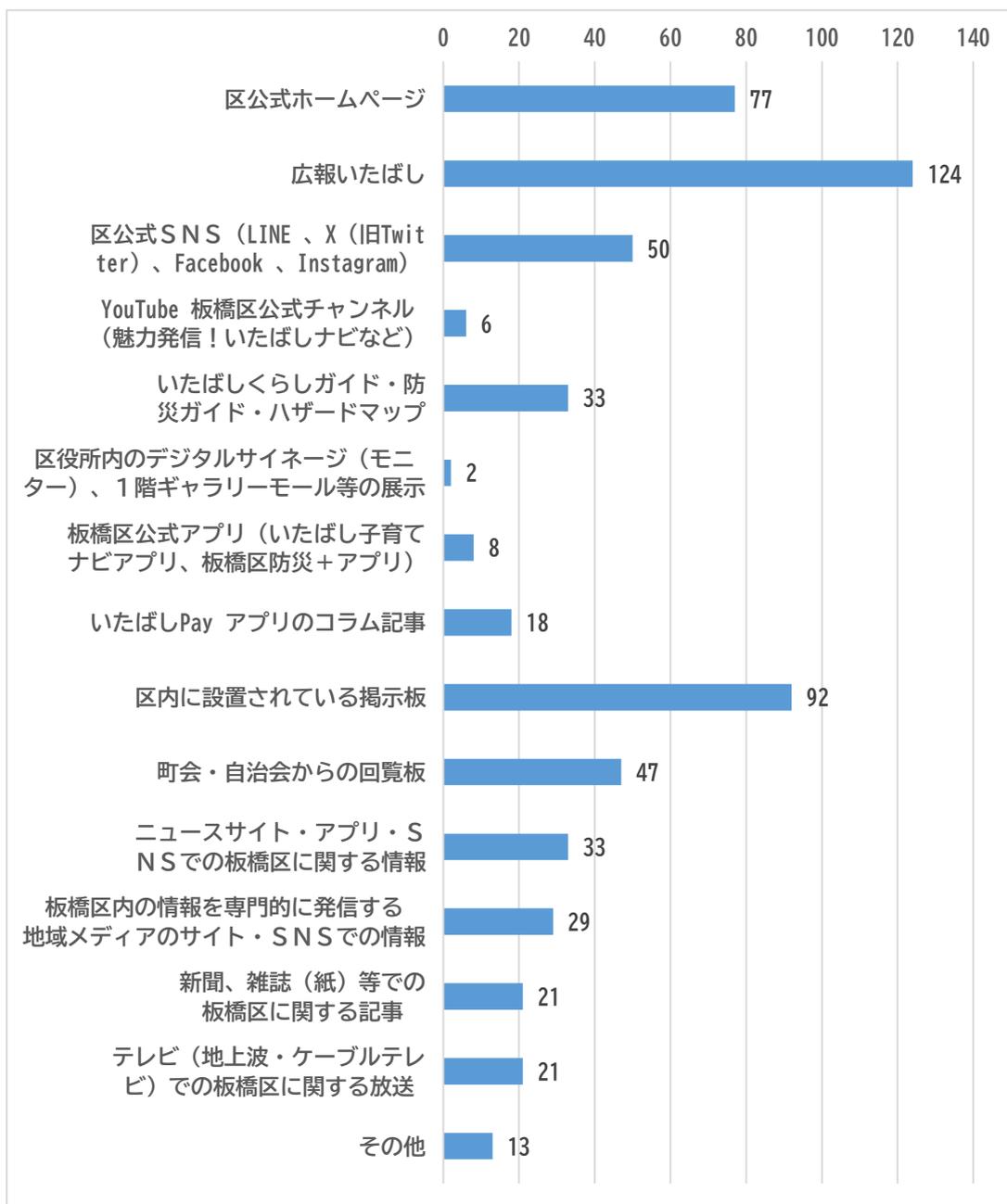
問11 あなたは、区からの情報が十分に伝わっていると思いますか。



n=182
未回答=1

「やや伝わっている」と回答した人が67人（36.8%）で最も多かった。

問12 あなたは、板橋区に関する情報をどのように得ていますか。（複数選択可）



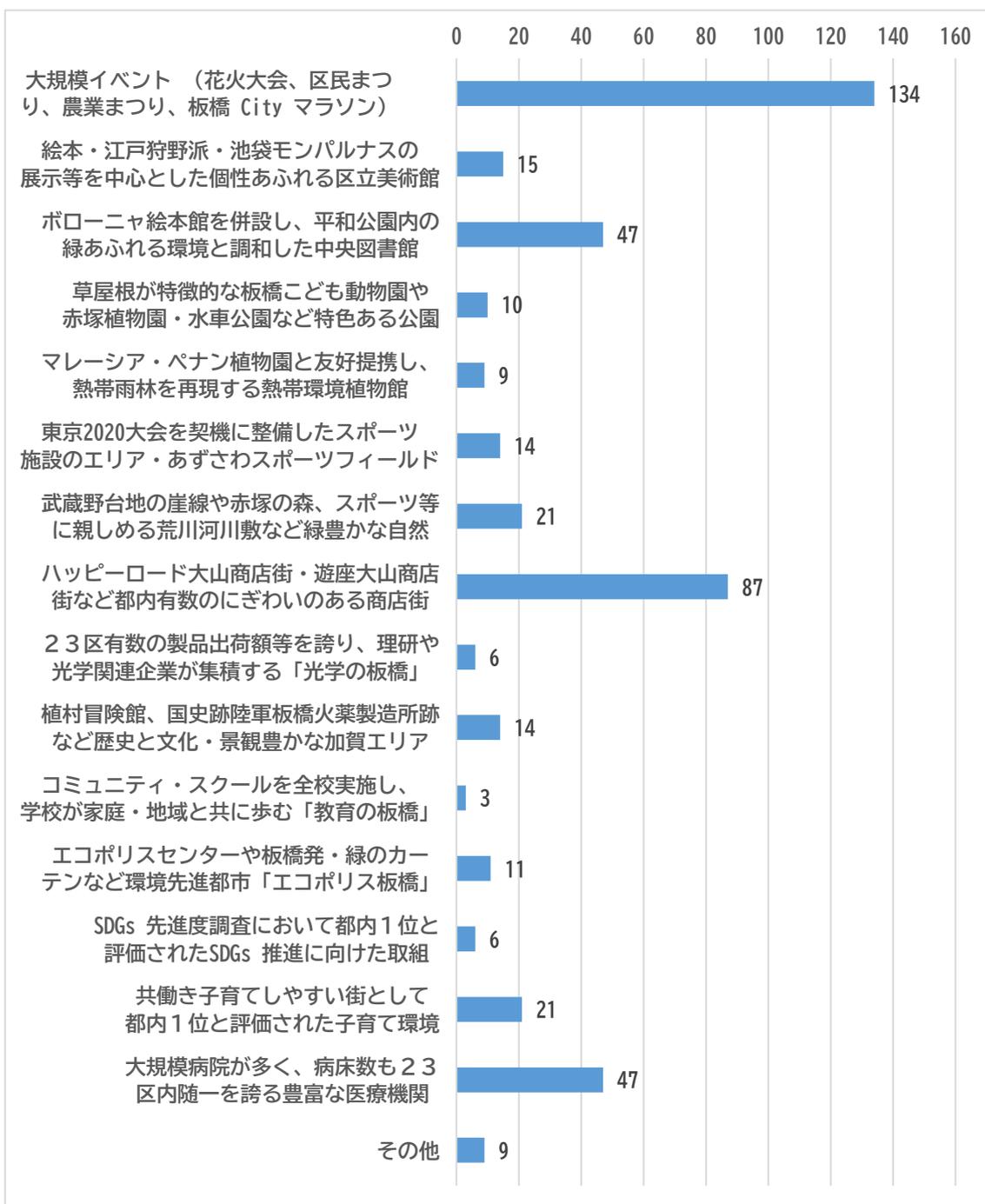
n=183

「広報いたばし」と回答した人が124人（67.8%）で最も多かった。

板橋区のブランドについて

国全体の人口が減少し、少子高齢社会が進行する中で板橋区は「選ばれるまち」となるべく、住んでいる人が「誇りに思うまち」、さらに区外の人にも訪れたいくなる「魅力あふれるまち」をめざし、自治体のイメージや知名度、ブランド力を向上させる「ブランド」戦略に力を入れています。

問13 あなたが、すでに板橋区の「ブランド」になっていると考えるものはどれですか。（3つまで選択可）



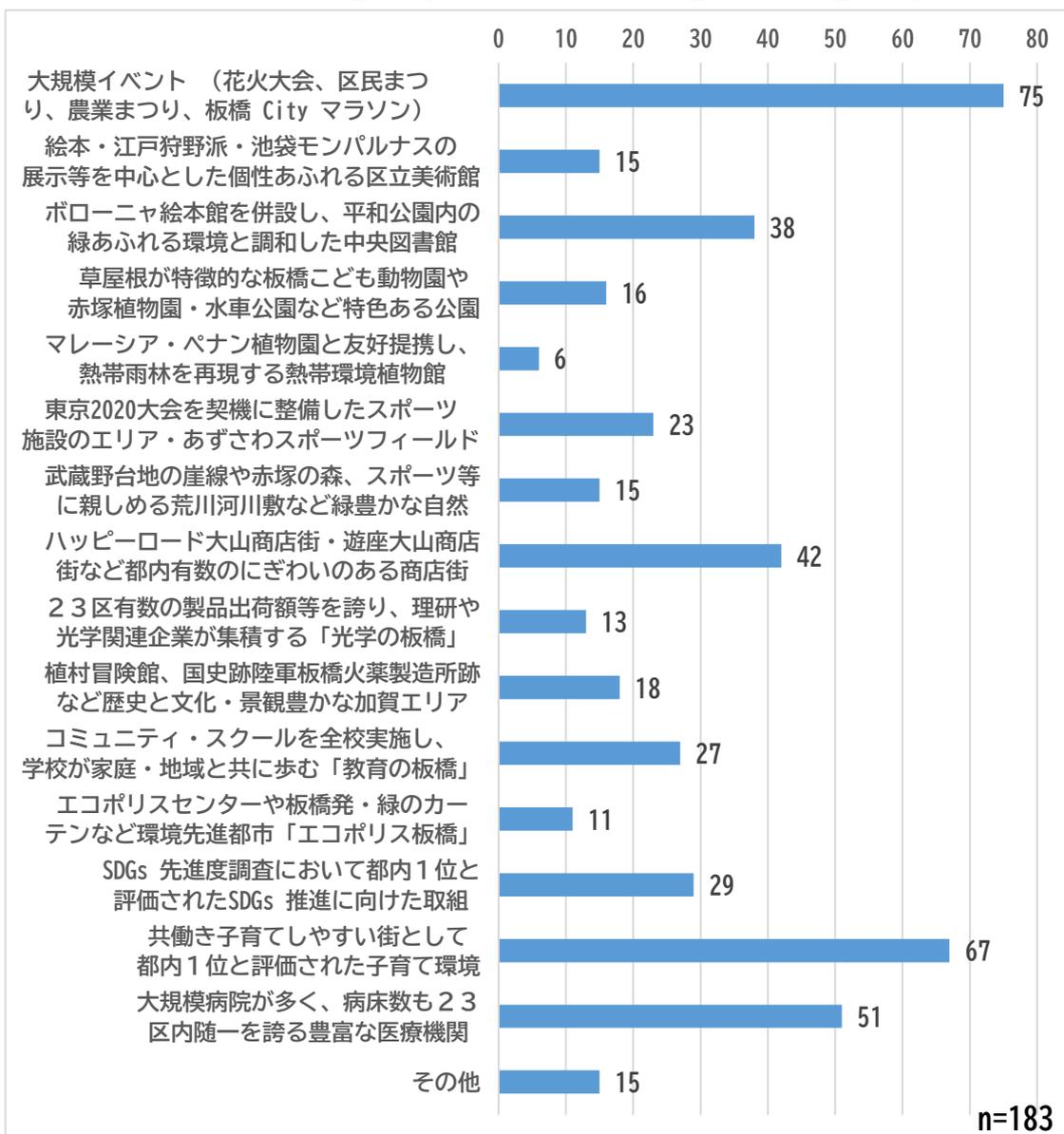
n=183

「大規模イベント（花火大会、区民まつり、農業まつり、板橋 City マラソン）」と回答した人が134人（73.2%）で最も多かった。

《その他の回答》

都心へのアクセスのしやすさ。（2件）
高齢者の住みやすい街。
何もないけど緑が多く他都市へのアクセスもよく暮らしやすいところ。
ブランドと呼べるものは花火大会だけである。
ブランドになっていると思うものはなし。（3件）

問14 あなたが、今後板橋区の「ブランド」になりうると考えるものはどれですか。（3つまで選択可、Q13と同様の選択肢も選択可）



「大規模イベント（花火大会、区民まつり、農業まつり、板橋 City マラソン）」と回答した人が75人（41.0%）で最も多かった。

《その他の回答》

足立区に負けないような子育て支援をしてほしい。
治安の良さ。
石神井川の桜、ときわ台住宅街のブランド化に期待しています。ドラマや映画のロケ地誘致なども良いと思います。
光学と産業(印刷や製本)など従来のもので合わせてブランド化して欲しい。技術や人はどちらも欲しいと思うので。
若い世代が住みやすい住環境の整備。
河川沿いの桜並木
新河岸の高性能焼却炉
伝統芸能
仲宿
いたばしpay
ブランドになるものはないと思う。（5件）

9つのめざす姿について

問15 次期基本構想では、概ね10年後の9つの姿をめざし、取組を進めています。

区の各政策の取組について、あなたの満足度（区のこれらの政策の取組状況について、どの程度満足感があるか）、重要度（区がこれらの政策に取り組んでいくことが、どの程度重要と考えるか）を10点満点でそれぞれご回答ください。

1【こども・若者】子ども・若者・子育て世代が住みたくなるまちの概ね10年後の「めざす姿」

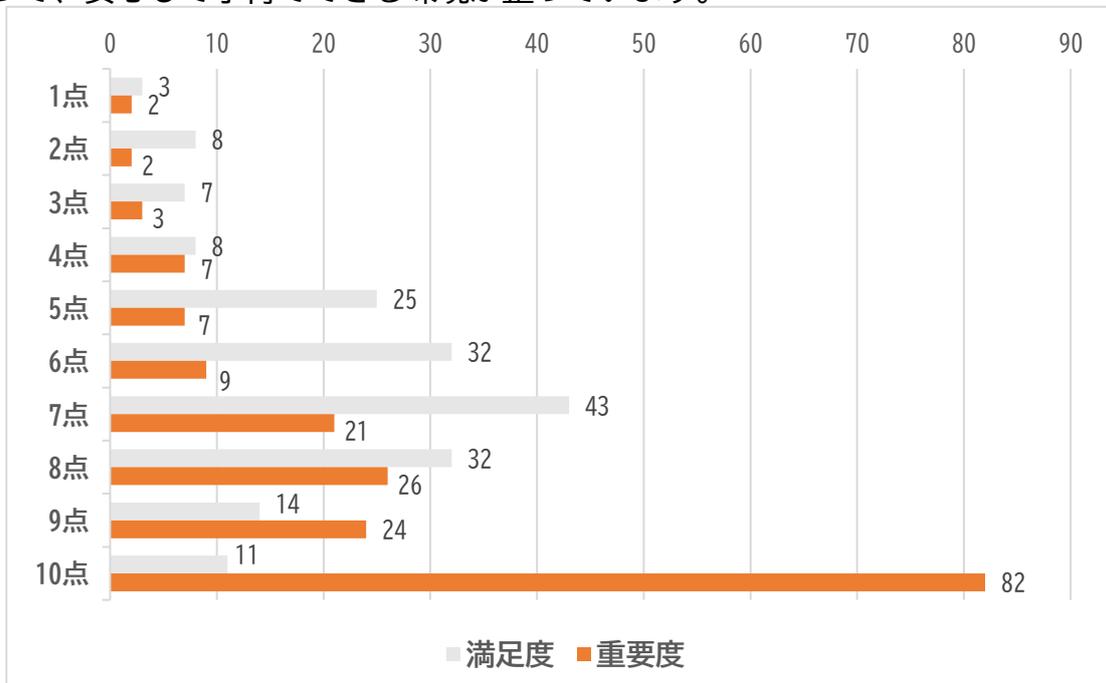
板橋の宝であり、未来を担う子どもたちが笑顔で暮らせるためには、子どもや若者、子育て世代一人ひとりが板橋での暮らしに愛着と誇りを感じ、住みたい・住み続けたいと思うまちづくりを進めることが大切です。子ども・若者・子育て世代が住みたくなるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

未来を担う子どもや若者たちが、板橋の歴史や文化・自然などに触れ、遊び、学び、意見を表明し、多様性を尊重しながら、自分らしく健やかに成長し、笑顔があふれています。

若者や子育て世代にとって、ライフスタイルに応じた交流や様々な活動がしやすいまち、また、子どもを産み、育てたい、親子で成長できる魅力的なまちとして、板橋での暮らしに愛着や誇りを感じています。

「誰一人取り残さない」理念のもと、いつでも子ども・若者・子育てに関する相談ができ、板橋区子ども家庭総合支援センターを中心として切れ目のない子育て支援の充実が図られ、地域や民生・児童委員、団体・事業者・企業などの連携・ネットワークによって、安心して子育てできる環境が整っています。



n=183

満足度では「7点」と回答した人が43人（23.5%）で最も多かった。
重要度では「10点」と回答した人が82人（44.8%）で最も多かった。

2【教育】「学びを通じて成長と幸せを実感できるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

子どもから大人まで、あたたかなところをはぐくむためには、生涯を通じて学び続け、成長を実感することで幸せを感じられるまちづくりを進めることが大切です。学びを通じて成長と幸せを実感できるまちをめざします。

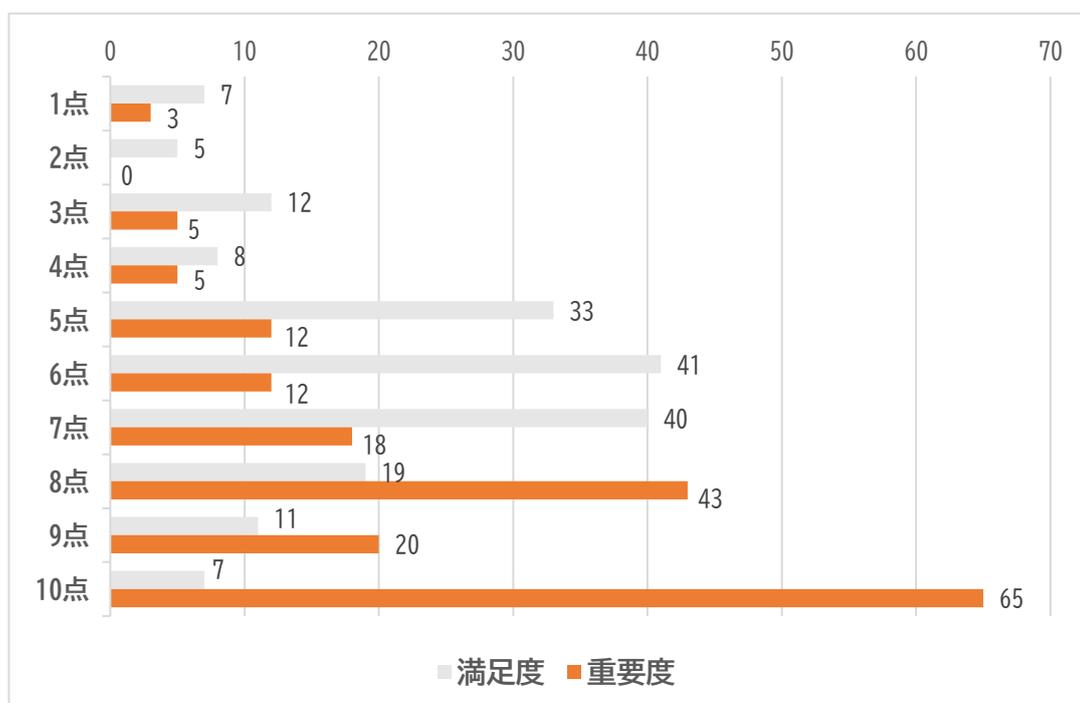
【将来像が実現されたまちの姿】

子どもが、一人ひとりの違いを認め、様々な価値観を持つ人と協働しながら、自らのよさや可能性を伸ばしています。また、それぞれの望む未来に向けた学びを選択し、豊かな経験を積み重ねながら成長し、幸せを実感しています。

すべての子どもの学びを保障するために、子どもを支える様々な主体が連携・協働し、子どもが安心・安全に学び、成長できる環境を創り出しています。

また、様々な体験機会を提供し、子どもの豊かなところをはぐくむことで、子どもの未来の選択肢を増やし、可能性をひろげています。

多様な学びを通じて、子どもも大人も生涯を通じて教え、学び合うことで、人と人、人とまちがつながり、人と社会の幸せが実現しています。



n=183

満足度では「6点」と回答した人が41人（22.4%）で最も多かった。
重要度では「10点」と回答した人が65人（35.5%）で最も多かった。

3【福祉・介護】「安心して住み慣れた地域で暮らせるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

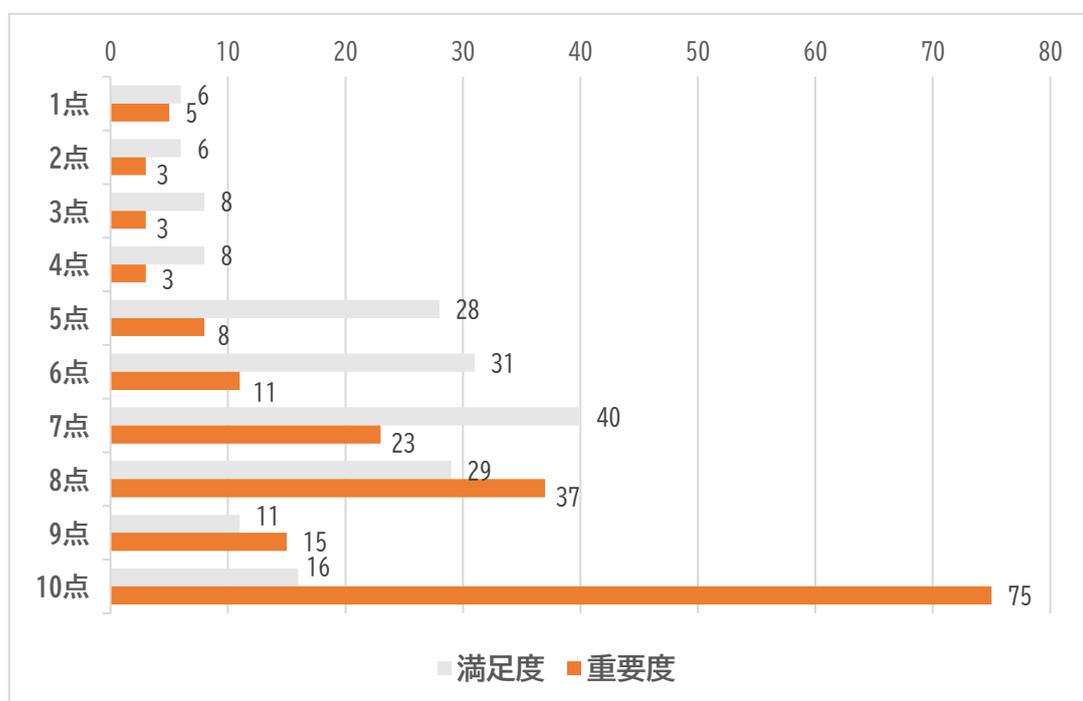
誰もが安心して住み慣れた板橋で暮らし続けていくためには、どのような時でも、一人ひとりがあたたかいところでともに支え合えるまちづくりを進めることが大切です。安心して住み慣れた地域で暮らせるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

子どもから高齢者まで、一人ひとりが互いに支え合うあたたかいところを持ち、自分らしく暮らすことができるまちづくりが進んでいます。

人と人、人と地域がつながり、多様性を尊重し、助け合いながら安心してこころ豊かに暮らせるよう、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制が構築されています。

まち全体へ「誰一人取り残さない」理念が浸透し、誰もが「生きづらさ」を感じることなく、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちが実現しています。



n=183

満足度では「7点」と回答した人が40人（21.9%）で最も多かった。

重要度では「10点」と回答した人が75人（41.0%）で最も多かった。

4【健康】「すべての人が健康で自分らしく輝けるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

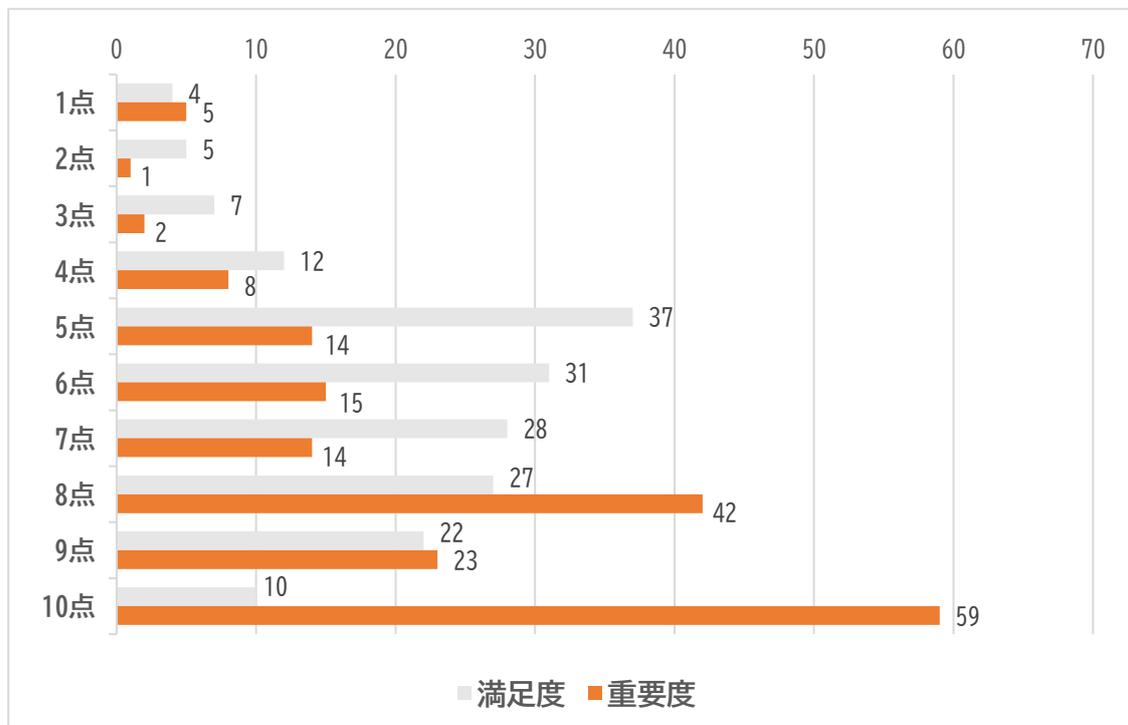
人生 100 年時代を迎える中、誰もが生涯を通じて生きがいを感じ、幸せを実感するためには、一人ひとりが健康を持続できるまちづくりを進めることが大切です。すべての人が健康で自分らしく輝けるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

住み慣れた地域で誰もがスポーツや文化、ボランティアなど社会参加活動を通じて、心身ともに健やかであり続け、生きがいを実感しています。

医療機関、介護事業者、研究機関、民生・児童委員、地域で活動している様々な団体などの豊富な地域資源がまちを支え合い、一人ひとりの健康や生きがいづくりをともに支えています。

子どもから高齢者まで、健康状態に関わらず、誰もが自分にあった健康づくりに取り組める仕組みが整っています。また、コロナ禍の経験を踏まえ、今後起こりうる新たな感染症などによる健康危機への対策が講じられ、安心・安全に健康を維持できる体制が確保されています。



n=183

満足度では「5点」と回答した人が37人（20.2%）で最も多かった。
重要度では「10点」と回答した人が59人（32.2%）で最も多かった。

5【スポーツ・文化】「スポーツ・文化に親しみ魅力へつなげるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

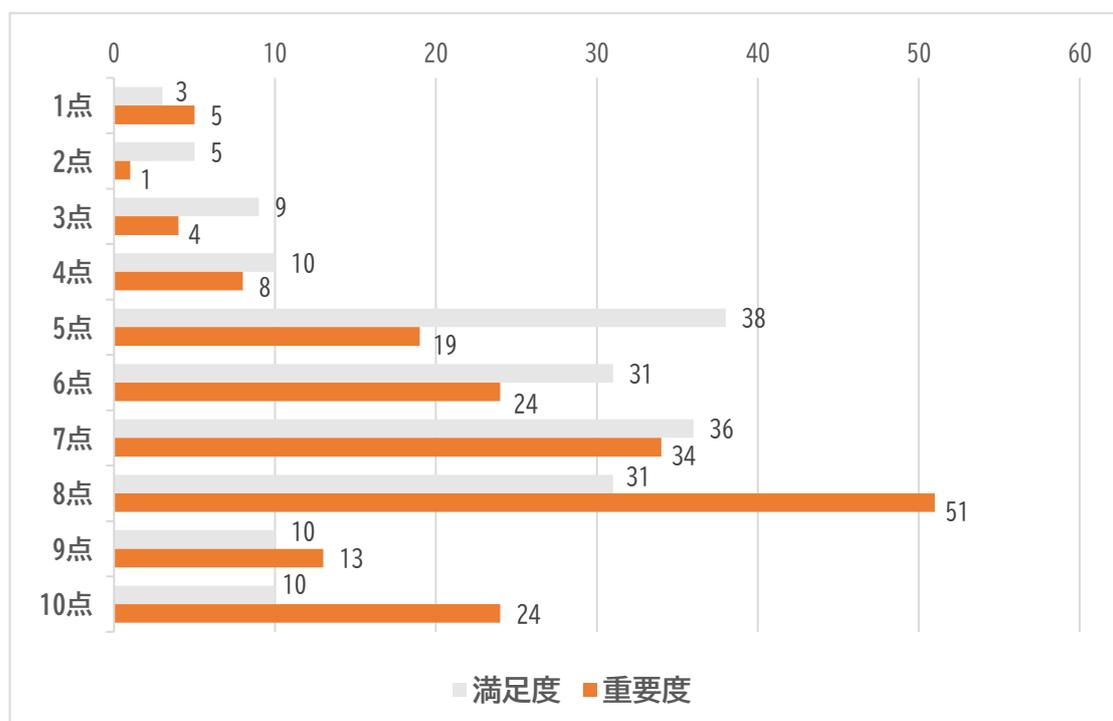
誰もが笑顔あふれるまちをみんなで作るためには、スポーツや文化を身近に感じることができ、次世代に板橋の文化を継承できるまちづくりを進めることが大切です。スポーツ・文化に親しみ魅力につなげるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

誰もが自分らしく、スポーツや文化活動などに励むとともに、板橋を拠点として活動するアスリートやアーティストなどが活躍し、魅力を発信することで、板橋での暮らしに対する愛着と誇りにつながっています。

地域に根差したスポーツ施設、美術館、文化会館など、誰もが自分らしく活動できる魅力的な拠点がまちのにぎわいを創出しています。また、中山道や川越街道の宿場町として発展した歴史や、徳丸や赤塚の田遊びなどの伝統を若い世代へつなぎ、まち全体に郷土愛がはぐくまれています。

スポーツ施設や美術館などを利用しやすい環境が整備され、誰もがいつでも・どこでもスポーツと文化に親しめるまちが実現しています。また、文化交流や日々の生活を通して、言葉や文化の違いを互いに認め合い、尊重しながら生活できる環境が構築されています。



n=183

満足度では「5点」と回答した人が38人（20.8%）で最も多かった。
重要度では「8点」と回答した人が51人（27.9%）で最も多かった。

6【産業】「板橋らしい産業の魅力を創造・発信するにぎわいあふれるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

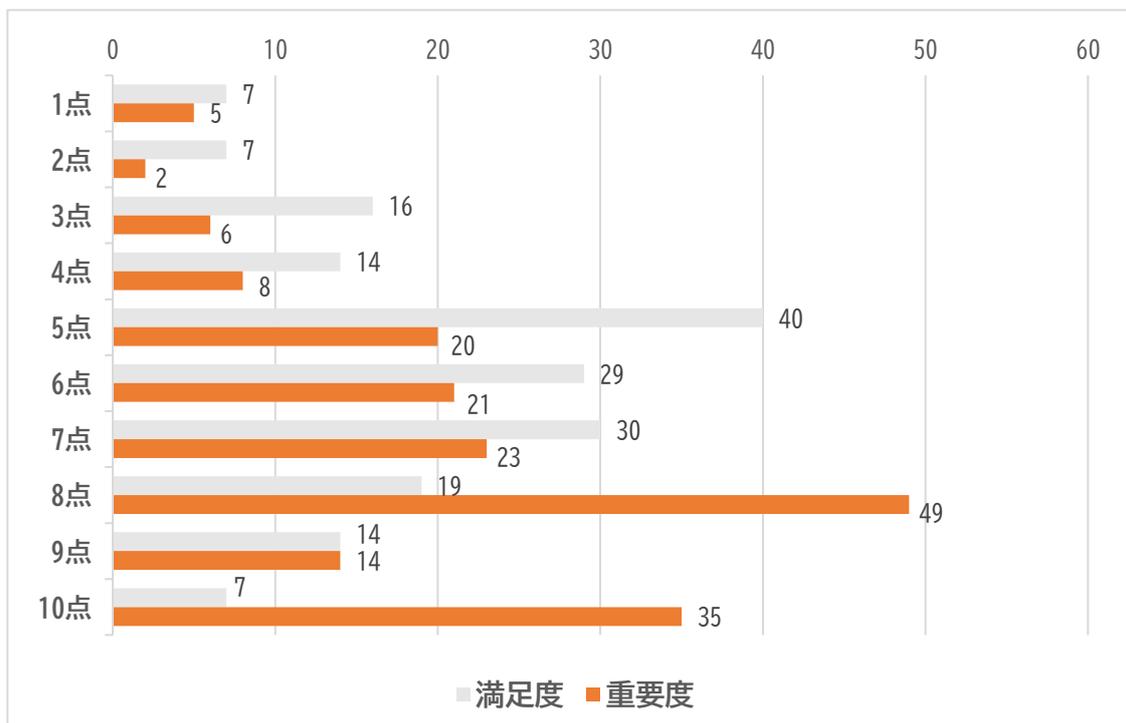
板橋の特徴的な工業・商業・農業が持続的に発展し、区民の生活が豊かになるためには、業歴や業種などの垣根を越え、それぞれの強みを活かしてつながることで生まれる、これまでにない革新的な価値の創造、ひいては魅力あふれる板橋産業ブランドの確立に向けたまちづくりを進めることが大切です。板橋らしい産業の魅力を創造・発信するにぎわいあふれるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

生成AIなどを活用した技術革新が進み、新たな産業基盤が確立し、板橋の魅力創出につながっています。また、物理学の聖地である旧理化学研究所を含む国史跡の陸軍板橋火薬製造所跡を拠点とし、小中学校と連携した歴史や自然科学などの「学び」の相乗効果が創出され、地域におけるにぎわいや魅力が高まっています。

戦後の成長を支えてきた光学・精密機器産業や都内有数の印刷製本産業をはじめ、多様な産業がつながり、新たな産業が生まれることで持続的に発展しています。また、区内外に「板橋産業ブランド」が根付き、魅力的なイベントや商店街が地域に愛され、まちに活気とにぎわいがあふれています。

「光学の板橋」や「絵本のまち」など区内産業の魅力や文化が区内外へ浸透し、「板橋らしさ」あふれる魅力的なブランド価値が生み出されています。また、板橋独自のみどりや文化などの地域資源を活かした観光振興や農業振興が、板橋での暮らしに対する愛着と誇りをはぐくみ、楽しくこころ豊かに暮らせるまちが実現しています。



n=183

満足度では「5点」と回答した人が40人（21.9%）で最も多かった。
重要度では「8点」と回答した人が49人（26.8%）で最も多かった。

7【環境】「みどり豊かで人と地球にやさしいまち」の概ね10年後の「めざす姿」

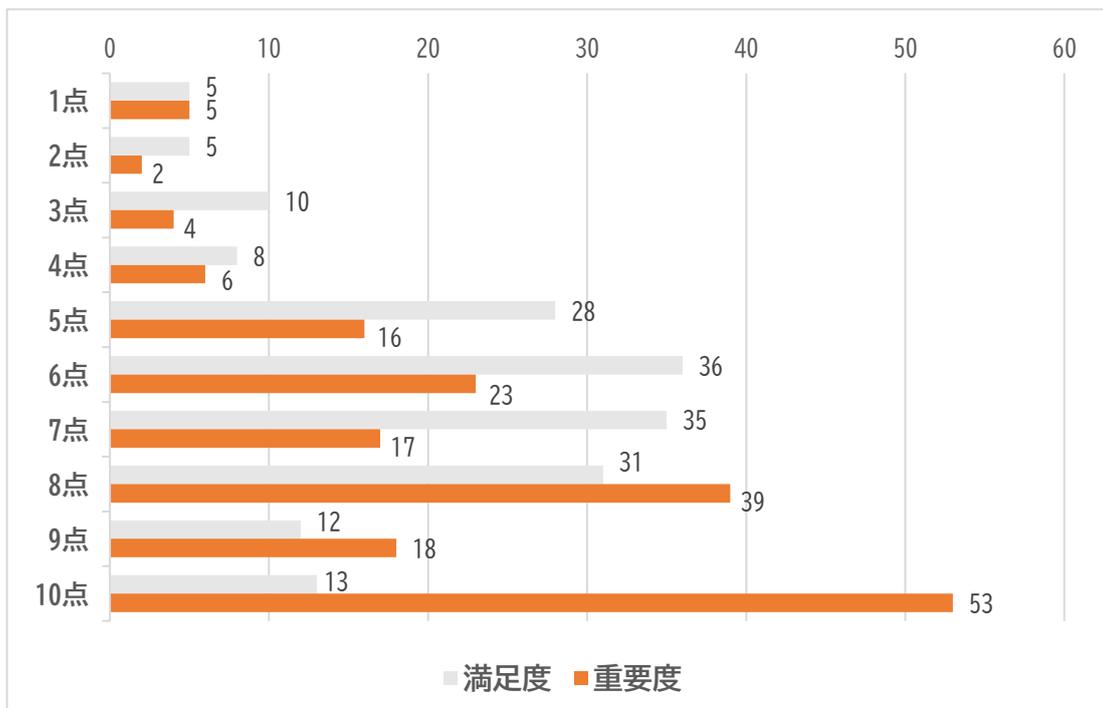
板橋が誇る豊かな自然環境を未来へつなぐためには、一人ひとりがあたたかいところでみどりと共存できる人と地球にやさしいまちづくりを進めることが大切です。みどり豊かで人と地球にやさしいまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

人と環境・地域が共生する「エコポリス板橋」の理念を踏まえ、人と人がふれあい、つながるみどり豊かなまちづくりが進められています。それにより、一人ひとりの板橋での暮らしに対する愛着と誇りが高まっています。

武蔵野台地の崖線や広大な荒川河川敷など、板橋ならではの緑地や水辺をまち全体で保全し、その魅力をはぐくんでいます。また、生物多様性が尊重され、自然と共生・調和する豊かなまちづくりが進められています。

一人ひとりがゼロカーボンや、みどりを活かしたまちに向けて行動し、多様な主体が連携・協働することで、安心・安全な人と地球にやさしい社会が実現しています。



n=183

満足度では「6点」と回答した人が36人（19.7%）で最も多かった。
重要度では「10点」と回答した人が53人（29.0%）で最も多かった。

8【防災・危機管理】「地域で支え合い安心・安全に暮らせるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

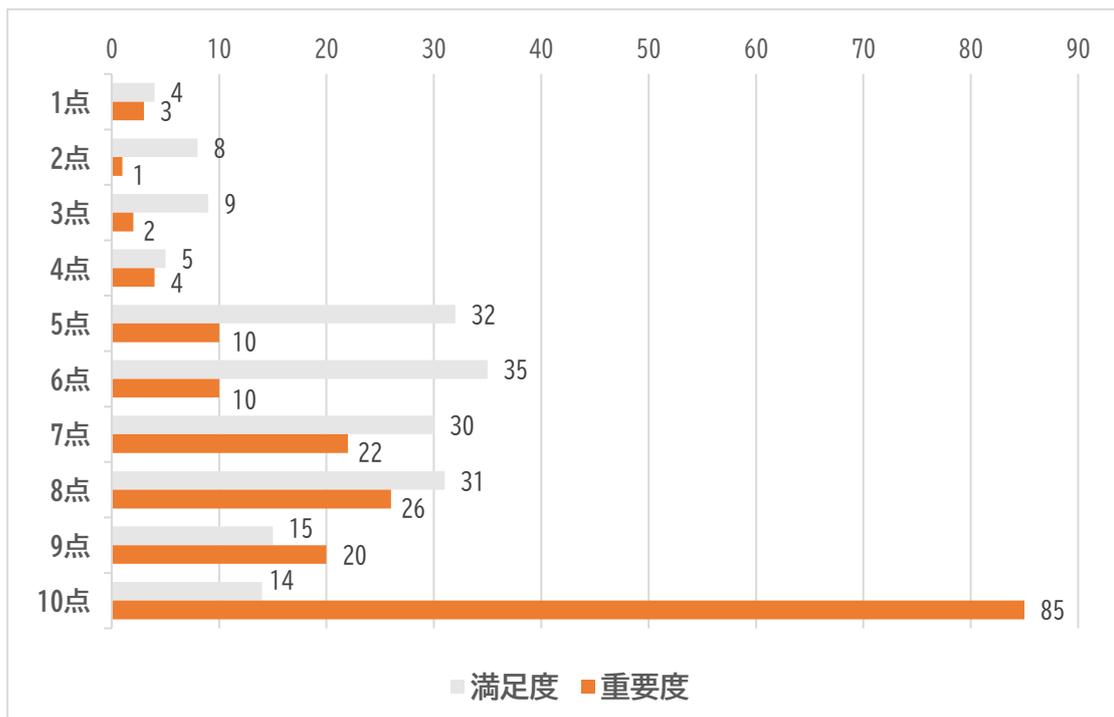
災害、犯罪、事故などあらゆる危機から生命と財産を守り、誰もが安心・安全を実感するためには、みんなが「板橋を守る」意識を持ち、人と人、また人と地域のつながりを高められる強靱なまちづくりを進めることが大切です。地域で支え合い安心・安全に暮らせるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

気候変動による風水害の激甚化や、大規模な地震などの自然災害に備え、一人ひとりの防災意識の高まりが行動変容へつながり、被災後も安心して暮らし続けることができる環境が整っています。

地域で暮らす人たちがつながり、互いに支え合う「誰一人取り残さない」体制づくりが進められています。また、多様化する犯罪に対応するため、地域ぐるみで「板橋を守る」意識が高まっています。

人とまちのつながりを通じて共に支え合い、どんな時も助け合いながら行動できる質の高い安心・安全なまちづくりが進められています。また、災害時の被害を最小限に留めるため、建物や都市基盤の防災・減災機能の向上による強靱なまちが実現しています。さらに、車や自転車、公共交通機関など様々な移動手段が共存する中、人優先の交通環境が整備されるとともに、一人ひとりの交通への安全意識が高まり、交通事故のない安心・安全なまちが実現しています。



n=183

満足度では「6点」と回答した人が36人（19.1%）で最も多かった。
重要度では「10点」と回答した人が85人（46.4%）で最も多かった。

9【都市づくり】「身近な暮らしの中でこころの豊かさを感じる魅力にあふれるまち」の概ね10年後の「めざす姿」

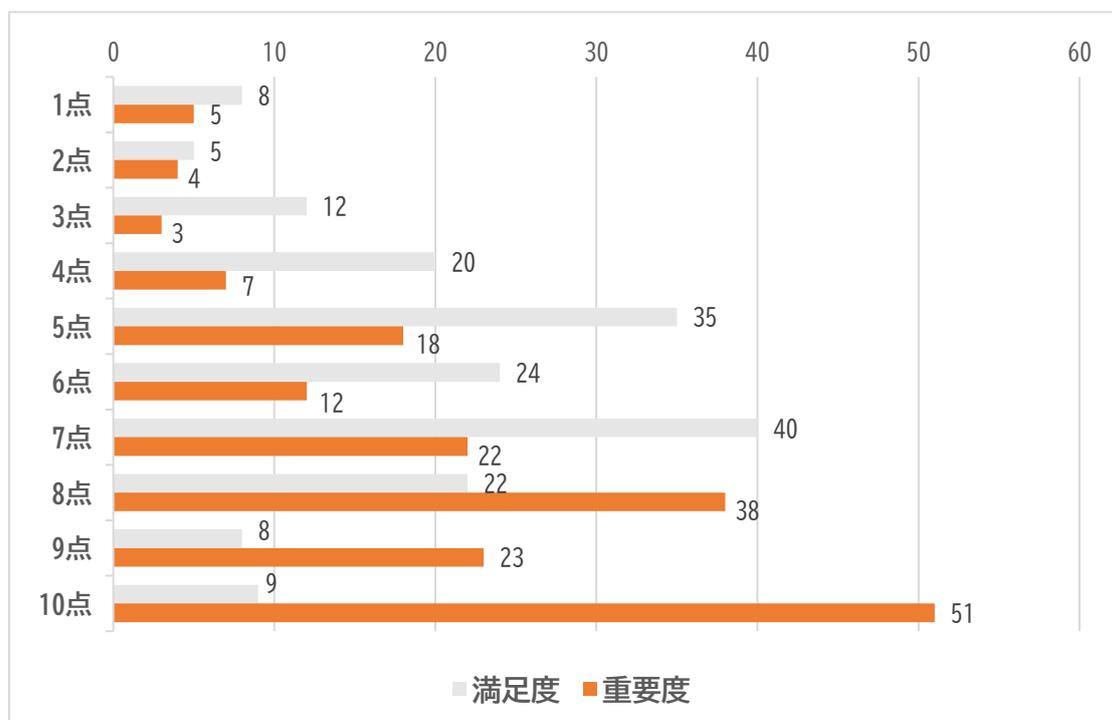
持続可能なまちを未来へつなぐためには、一人ひとりが板橋に愛着を感じ、次世代に誇れるまちづくりを進めることが大切です。身近な暮らしの中でこころの豊かさを感じる魅力にあふれるまちをめざします。

【将来像が実現されたまちの姿】

板橋に住み、働き、訪れる人が身近な暮らしの中で人とのつながりを得られ、様々な交流や活動がまちの文化や魅力をさらに高め、幸福を感じられるまちが実現しています。

地域ごとの個性が際立ち、みどり豊かでうるおいのある空間が形成されているとともに、都市の活動を支える道路・交通環境が整備され、誰もが移動しやすく出かけたくなる環境が実現し、にぎわいの形成や地域経済の活性化にも結びつくまちづくりが進められています。

板橋が誇る自然豊かな環境と、板橋ならではのみどりや水辺空間、文化と歴史を彩る豊かな街並みによって、人とみどりがつながり、こころ豊かに暮らし、誰もが自分らしく住み続けられるまちが実現しています。



n=183

満足度では「7点」と回答した人が40人（21.9%）で最も多かった。
重要度では「10点」と回答した人が51人（27.9%）で最も多かった。

自由記述

問16 今回の板橋区基本構想中間答申で気付いた点があれば自由にお書きください。

※いただいたご意見の中から抜粋して掲載しています。

○今回の板橋区基本構想中間答申について共感いただいた声

<p>中間答申の内容は大変すばらしいと感じました。この内容をどの様に実現していくのか今後を注視し、ご協力出来ることは協力したいと思います。</p>
<p>理念に関しては基本的に同意する。一方、具体的にそれらをどう実現していくのかは不透明である。おそらく今後具体的な処方箋が他の協議、文書で公開、実行されていくのだろうが、区民は、インフレ、物価高の折り、金銭的補助などを期待していると思われる。子育て世代や高齢者などへの区内交通機関利用補助パス、高齢者生きがい趣味サークルなどへの助成、石神井川ソメイヨシノ老木への対策など身近な出来そうなことを早急に取り組んで欲しい。追伸)今回のアンケート、アプリ入力画面がよく纏まっており、わかりやすく、入力しやすかったです。</p>
<p>ある程度、具体的なビジョンが示されていて大変良い内容だと思います。 なお付け加えるのであれば、治安対策。昨今問題になっている川口クルド問題など、対岸の火事ではない。事実私の知人は、クルド問題渦中の地域に住んでいたが、転居を余儀なくされた。 板橋も以前から外国人居住比率は高い方だと思う。外国人は比較的コミュニティを作りがち、自己のアイデンティティを主張することになると地域住民とトラブルの原因になる可能性が高くなる。 外国人コミュニティを作らせない、日本人とのコミュニケーションを密し、共生しやすい街であれば、日本人も住みやすく外国人も多く住んでもらえるのではないかと。共生できる街づくりも板橋が将来有望の街になるのでしょうし、実現すれば世界的に先進性がある板橋区としてPR効果は多大なものになるのでは。</p>
<p>結婚しているため、今後子育てをどこで進めていくかを悩んでいましたが、板橋で産み育てたいと思えました。将来の不安も軽減されそうな気がします。</p>
<p>9つのめざす姿に共感いたします。子供の教育から福祉、防災に至るまで安心安全な住みよい街づくりに引き続きご尽力いただきたいですし、現在募集されているパブリックコメントにも、できるだけ多くお答えいただき、意見交換しやすさも住みよい板橋のアピールにしていだけたらと思います。</p>
<p>現行の基本構想も確認させていただきましたが、それを踏襲して良い基本構想だと感じました。基本理念・将来像を含めて、多様な区民、NPO、地域団体などに対して検討されており良いと思います。しかし、良いが為にかもかもしれませんが、お題目を並べた、下手をすると他人事になってしまう感覚もあります。板橋区民や職場・組織を含めた関係者が主体的に考えることが出来る様な施策に落とし込める様な仕組みがあると良いですね。 難しいとは思いますが、10年後の姿を良い方向に進んだとき、又、逆の場合のイメージを持ってもらい、自分なら又自分の組織ならどうするか・イメージできると良いかも・・・</p>
<p>今まで10年後を見据えて生活してこなかったのが、今回の基本構想中間答申を読み、個人でもこの考えを大切にしつつ日々の生活を送らねばと改めて感じました。 9つのめざす姿にあるどれも大切です。孫たちの世代に残すべき板橋の姿をめざしていきましょう。</p>
<p>9つのめざす姿が具体的に記されていて将来の姿を多面的にかいているところが良いと思いました。時代に合わせて気候変動やデジタル化など柔軟に見直しされていると感じました。</p>
<p>基本構想と盛り込むべき施策はどれも素晴らしいものと思います。 施策の具体化にあたり、予算の制約もあるかと思いますが、どの区民もそれぞれの立場に応じたベネフィットを得られるよう期待しております。</p>
<p>2015年に策定した時より時が経過し、今まで以上にとても早いスピードで変化が生じていると考えております。 そういった状況の中においても、日々起こっている変化に対して対応できる内容となっていると感じました。</p>

基本構想のレベルでは、中間答申の内容でおおむね問題ないと考えます。
20年以上板橋区に住んでいますが、年々緑が減っていることを大変残念に思っています。「緑と文化のかがやくまち」を掲げるのであれば、それに見合った実効的な施策が展開されることを期待します。
また、将来的な人口構造の変化（超少子高齢化）を踏まえるのであれば、税金を支える年齢層の高齢化を考慮したうえで、最期まで地域で充実した生活が送れるような環境整備が必要だと考えます。高齢者にも「未来をひらく」を実感できるような、より強い表現があると良いと感じました。

素敵な内容だと思います。
具体的な細かな詳細について知れたら良いかなと思いました。

タウンモニターを引き受けたことによって中間答申を見て、板橋区が取り組んでいることが良くわかった。
私には難しい事柄も多々ありましたが、安心して楽しく暮らして行けるように考えてもらっているんだと思った。
福祉等も充実しており、板橋区へ引っ越す人も増えていると聞いていたので、住みやすくなっている反面、大変にもなっているのではないかなとも思う。

基本構想があることさえも知りませんでした。構想が具体的な政策に活かされているということは理解できました。
誰一人取り残さないという理念は素晴らしいと思いました。立場の弱いひと、声を上げられない人に寄り添う政策に期待します。
毎日あくせく働いていた時は気付く余裕もなかったのですが、板橋区には色々なサービスあります。体育館、植物園、郷土資料館、美術館、図書館、ふれあい館などが日々の暮らしを豊かにしてくれています。現役世代の時にももっと利用すればよかったと今更ながら思います。

○今回の板橋区基本構想中間答申について、内容のわかりづらさや改善を求める声

構想は悪くないが、あまりにも抽象的で良くわからない。施策も具体策が明示されていなく(具体的な施策次第で決まるものなので)自己満足的な感じです。

「子ども・若者・子育て世代が住みたくなるなるまち」が筆頭にあげられているが、高齢者世代当事者として、高齢者世代は？と疑問に感じた。
かなり高齢化が進んでいる板橋区としては、そうした現実を踏まえ、活力ある高齢者の居住について、基本構想の中に記述してほしいと思う。

中間答申の記述は全体的に抽象的な表現が多い。「緑と文化のまち」、「緑のまち」として既存の武蔵野の名残や大きな河川を挙げているが、目の前の小さな公園の樹木や街路樹、暗渠後の緑道の樹木が無残にも丸坊主にされるのを目の当たりにすると、計画は計画にすぎないと思ってしまう。

若者や氷河期世代、独身の人も居るのにそれらの視点が抜け落ちている。
板橋区は独身も多いのだから、みんなではなく独身に特化した、独身や1人も楽に暮らしていける区にしても良いのではないかな。
あと高齢者対策は今まで甘えさせ過ぎていたせいで高齢者の犯罪も増加してるのだからもっと厳しくするべき。
私達が高齢者になったらネットを活用して家で1人で楽しむし楽しめるので、ふれあい館や地域の集会場は無くして臨時避難所にしたたり団地の集会場は宅配ボックスに変えて欲しい。
コロナの件もまだ続いているので、もう団結とか皆で支え合うは無理。
支え合うのではなく1人でも楽に生きていける社会と区に改善すべき。
あと絶対的に若者向けの店(アニメイト、カフェ、外資系スイーツなど)とサービスを増やさないと板橋区には若者も来ないし金も落ちない。
最近東武東上線沿線ばかり便利になってきてるが都営三田線沿線も便利に、再開発すべきだ。

先ず、9つのめざす姿を提示されていますが、どれも具体性に乏しくふわっとした表現にとどまっています。これから具体策を策定するので仕方がないのでしょうか。より具体的に内容を見てみたい。また、9つもの提言をされていますが、多すぎるのではないかと。全て対応できるのか・もう少しテーマを絞った方が良いのではないかとというのが率直な感想です。「板橋らしさ」という言葉がありますが、20数年板橋区に住んでいますが「板橋らしさ」とはと聞かれた場合、明確な回答ができません。「板橋らしさ」とは何かを明確にすべきではないのでしょうか。そこから取るべき政策が出来上がってくると思うのですが。例として「絵本の町」をあげておられますが、区外・区内の方のほとんどの人が板橋区＝絵本の町というイメージを持たれていないのではないかと思います。板橋＝〇〇という強いメッセージ性を持たせ、そこに向けた政策を実施し対外的にアピールすることを目指してはどうかと思います。板橋の強みを洗い出し、さらにそこを伸ばしていく施策が板橋区をアピールするうえで一番の近道に思えます。9つの目指す姿はどれも平均並みに落ち着く感じがして、平均的な街板橋といったことになりかねないのではと感じます。あと、多様性やSDGsを多用されていますが、世界情勢を鑑みた場合、10年後には逆行する施策になるのではないかとさえ感じます。例えば、多様性を重視するあまりマイノリティーや外国人（移民）への配慮に気を取られ、マジョリティーの生活に支障が出る可能性が多分にあると思います。多文化共生にしても聞こえは良いですが、相手（諸外国）の文化の理解や相手の文化に合わせる取り組みに税金を使うのではなく、日本文化の継承・啓もうや浸透させる取り組みに使っていただきたいです。日本全体に言えることですが、外国人がやりた放題や犯罪を犯しても罪に問われない現実を見せつけられると多文化共生が正しいことなのか甚だ疑問です。多文化共生を言う前に、法の下外国人であっても適正な処罰が行われるようにしていただきたいです。ここ最近、外国人の方を板橋区内（自分の住む町）で多く見られるようになりました。去年の人口増ランキングで板橋区が上位（10位以内）に入っているニュースを見ました。内訳は知りませんが、外国人の方が多くを占めているのではないかと危惧しています。先ずは、ごく普通の日本人が住みやすい街（安全で安心できる街）づくりをベースに考えたいです。板橋らしさや特徴はベースがあってこそものだと思います。

防犯、危機管理の問題が多いなかで、取り組みについての姿勢への具体的な記述が少ない。

構想自体が平凡。東京都のトップダウンだったり、他の自治体と横並びの政策で「板橋」の個性がない。可もなく不可もなしという印象で「板橋に住みたい！」という魅力には欠ける。「豊富な医療機関」と言っても、実際には選定療養費がかからない町医者が圧倒的に不足している。暮らしている志村地域では、特に婦人科がない。整形外科、皮膚科も少なすぎる。

良い言葉が連ねてあるが、板橋区に住むものとしては目標と現実が乖離しすぎていると感じる。板橋区の持つ下町情緒あふれる商店街は次々と壊されているし、自然を売りにしたい割には大きな街路樹を伐採したり、今ある巨木を保護しようとしなかったりあまりにも酷い。お年寄りや障害のある人の住みやすい街にというが、高齢者の女性の半分は貧困に喘いでいる。値上がりが続き、孫たちを家に呼ぶにも食費代がかかるから正月は1人で過ごしたという人もいる。これが板橋区なのであり、そういう小さな幸せさえ壊されている現状を無視して欲しくない。

板橋区基本構想審議会中間答申は、「持続可能性」を掲げ、10年後の将来像を描いていますが、持続可能性という言葉を使うのであれば、単なる理想や理念の提示に留まらず、100年後の板橋区の姿を区民にイメージさせる内容が求められます。現行の答申は、「緑と文化のまち」「共生社会」「デジタル活用」といった一般的な表現にとどまり、板橋区独自の物語性やビジョンが見えにくい点が残念です。特にデジタル分野では、単に「DX戦略」「技術活用」といった一般的な言葉に留まり、区の強みや地域資源との結びつき、そして未来への展望が見えてきません。Society5.0の理念——超スマート社会による経済発展と社会課題解決の両立——を参考にするのであれば、単なる効率化や利便性向上に終わらせず、板橋区ならではの文化や産業を次世代へつなぐ仕組みを示すべきです。さらに、今の子育て世代、とりわけ次の時代を生きる子どもたちに何を残せるのか、どのような環境を引き継いでいけるのかを、構想の中心に据えるべきです。教育や地域文化、環境、防災、産業の各分野において、彼らが誇りを持ち、安心して暮らせる基盤を残すという視点が不可欠です。10年後の目指す姿を描く際は、それが「次世代への責任」を果たすための第一歩であることを、答申全体で明確に伝えてほしいと感じます。

漠然と10年後のイメージを語っているので掴みどころが分からないけど人任せというか、性善説に頼っている感が多く感じました。もちろん具体的な話はこれからなのでしょうが具体的な計画案に対してなら賛成反対こうした方が良いのでは等、回答しやすいと思いました。構想案としては分かりますが。

・基本理念3つをベースとして将来像及び9つの目指す姿があるとすれば、基本構想のイメージ図はその通りに捉えられないと思いました。(基本構想と将来像/目指す姿のマングラが分かれており、ベースの考えから発展していると捉えられない)

・『「9つのめざす姿」を実現するための施策のあり方』の中の教育関連の枠の中に教育現場のDXについての言及がないことに驚きました。組織横断的に取り組むテーマの中にもDX及びAIによる効率化・高度化を謳うのであれば、教員業務のDX化や教育現場でのAI活用、活用までいなくてもAIに対する子どもたちへのリテラシー教育(特に今はデジタルタトゥー問題など『1度失敗すると取り返しがつかない』)ことが多いので・・・)を民間企業や大学と連携して行うなどは必須なのかなと思っています。

・『「9つのめざす姿」を実現するための施策のあり方』の中の「子ども・若者」部門で新規内容となる「若い世代が魅力を感じる施策の充実と効果的な情報発信」については、一言で若い世代と言っても各フェーズごと(中学生/高校生/大学生/社会人/既婚か否か/子あり子なしなどで違うかと思いますが)で考え、それらの中で最大公約数な施策という形にしないと施策成功に向けてなかなか難しいのでは、と思います。情報発信についても単にInstagramやTiktokで行うだけでは(初めの1歩となったとしても)意味があまりないかと思っています。

・『「9つのめざす姿」を実現するための施策のあり方』の中の「福祉・介護」部門について、少子高齢化及び高齢者=要介護者が増えることについての対応施策の言及がないように感じました。また、(こちらは「健康」部門なのかもしれませんが)フレイル対策についても言及がないので、区をあげて対策していただきたいなと思いました。

・基本計画推進のための区政経営のあり方の方針の中で「③板橋ブランドの確立と効果的・戦略的な情報発信」とありますが、「絵本のまち」以外でどのようなことを「板橋ブランド」として認定し、広めるのかがあまり理解ができませんでした。共働きにとって住みよいまち、とのブランド価値を育てるのであれば、板橋区以外に在住している方(特に首都圏)へのPRが必要であり、それには「絵本のまち」だけではブランドとして弱いのかと思います。

P25~26の安心して住み慣れた地域で暮らせるまち(福祉・介護)、すべての人が健康で自分らしく輝けるまち(健康)について、自分も就職氷河期世代でこれから単身者がふえると思うのですが、特に病気や障害がない、けど介護要請や費用までは不要な高齢者向けの施策をもう一段考えていただければ幸いです。

例えば、イギリスでは、上記のような高齢者向けに1週間の食事の宅配、部屋の清掃、洗濯(クリーニングの集荷)を依頼できるような施策があるのを聞きました。区内の協会社様やクリーニング店などで発注ロットがあれば参入したい会社様で高額でなければそこそこリーズナブルな金額で提供していただければ、自分もその年齢に該当したときは依頼したいと思います。

現在は、健康な方への何か運動やアクティビティサービスか、介護が必要な方への区民サービスの両極端の様に思われます。

経済活動や、地価を向上させるような目標がないことが気になった。

子育て世帯や高齢者世帯からみた場合と、働いている側から見た視点はやはり違いますし、子育て世帯と言っても、未就学児から高校生位までいるので取る世代が変わってくるとおもいます。

私は小学生の子育て世帯の板橋勤務ですが、産業は始業が早くパートが主になりがちで後継が育たず、また小学生の発達障害や不登校の支援には板橋区はまだ手が行き届いて居ないのだなどの印象を受けます。キャリアパスポートがありながら未来像が見えない子がいます。その分野の支援に力を入れて頂きたいです。

何故なら、発達の特性は時には産業分野での長所だったりするからです。

本人の困り事が才能にかわり、就業できることほど親の安心に変わるものは無いです。

道筋がいま見えないので、そのビジョンをひとつでも見せて頂けないでしょうか。

よろしく願いいたします。

基本理念と将来像は理解出来たが、施策のあり方についての考えが甘いように思う。読んでいて、ただの理想像としか言いようがない。

例えばDXというが、区民全体のデジタル人口は現在何パーセントなのか。高齢者は理解し、活用出来るのか。区民への機器貸出しや、利用講習など必要ではないのか。など、具体策が示されていないため、漠然としか分からない。各世帯へのデジタル機器配布など、大胆な施策をたてていただきたい。

また、少子超高齢化社会の中で、いかに若年層に板橋区を選んで貰えるか、が鍵であると考えます。地方から上京し板橋区を仮の住処として選んだ学生を、社会人になり子育て年代になっても第二の故郷として板橋区を選んでもらう!という取組みなど、積極的に進んでいくべきだと思う。

区が存続、発展していくためには、誰もが住んでいて幸せを感じられる街であることが必要なのではないでしょうか。

この資料は誰が見る資料なのかわかりにくいと思いました。目標や理想などはとても魅力的で良いと思いますが、現状はどうで、何が問題なのかリアルな声を描いて欲しいと思いました。綺麗事を描いているだけに見えてしまい、このままでは板橋区は何も変わらないのではないかと思います。

資料（基本構想審議会中間答申）を確認しました。良いことの記載はありますが、どの内容も漠然としており、具体的なキーワードが少なく、内容が不明確である印象を持ちました。また、9つのめざす姿と記載がありますが、9つは多いのではと思っております。

※板橋区の基本構想を分かりやすく示すには、あらゆることを包含しすぎている印象です。今後の答申作成時には、具体的キーワード（実施する地名、既存や新規の団体名、実施スケジュール）を記載し、基本構想とはあるものの、明確な板橋区のビジョンとしていただきたいと思っております。

※良い記載例は以下の通り（当該資料14ページ参照、子ども・若者関連）

→板橋区子ども家庭総合支援センターを中心として切れ目のない子育て支援の充実
厳しい記載をしましたが、この基本構想が今後の板橋区区政に対し、明確な長期ビジョンを示すことができるよう、分かりやすい基本構想となることを祈念いたします。
よろしくお願いいたします。

- ・全文を通して抽象度が高すぎて何を言いたいのかわかりません。
- ・達成基準がないのでイメージが湧かない。作ることが目的になっているのでは。
- ・未来をひらく 緑と文化のかがやくまち、という理想像に今現在一番近い自治体はどこですか・明確な目標をまずはもってほしい。
- ・AIの推進については賛成です。まずは板橋区役所で全職員が使えるよう整備してください。
- ・総じて目標が多すぎます。区民は板橋に対してすでになんの期待感もありません。火事が多く、空き家が放置され、イベントも花火大会以外に広く知れ渡ったものはなく、病院は老朽化が激しく老人のたまり場です。まずは犯罪発生件数を減らしてください。火事、自転車盗難、ひったくりなどの原因となり得る要素を徹底的に排除してください。これができなければ全ての目標は無意味です。

各項目について区民のニーズを収集する方法が記載されておらず、的外れな施策をされるのではないかと不安に感じる。
基本構想なのでやむを得ない部分があるが、全体的に抽象的な印象を受けるため、具体策が分からずコメントできない。

「板橋区基本構想中間答申」を拝読して、板橋はこんなにがんばっていて、こんなに楽しく暮らせる所だったんだ！と知りました。
しかし区外の人はおろか、区民でさえあまり知らないのはとても残念です。
長く板橋に暮らす祖父母でさえ、板橋に素晴らしい植物園や面白い取り組みが行われているポローニャ絵本館があることを知りませんでした。
私にとって、板橋はそこそこ交通も便利で、そこそこ治安が良くて、意外と不自由しないちょうどいい町です。
これ以上多くは望みませんが、こうした施設や取り組みがあることを話題に出来たら、もっと板橋を誇れるかもしれないと思いました。

何を実現しようとして、どうならないようにしていこうとするのかが見えない。

- ・「地球温暖化」よりも、区内のインフラ（道路・水道など）の方がより直接的な問題。
- ・「誰一人取り残さない包摂的な社会の実現」のためには、「AI vs. 教科書が読めない子どもたち / 新井 紀子【著】」にあるような、教育の恩恵に十分あずかれない子どもたちへの丁寧なケアが必要になっている。
- ・近隣の自治体で生じている社会的なリスクの状況を意識すること。

日本語も英語も理解しない人の受け入れは、受け入れによる社会的コストが増大する。

- ・「国籍などに関わらず」という表現を安易に入れすぎないこと。

日本社会の反映に対して経済的に寄与してきたかを、日本の法律・文化になじんでいるかを重視すること。

「日本の法律を守り、日本社会に馴染み寄与してきた人は、国籍にかかわらず」くらいにしたほうが良い。不法滞在者が、「国籍などに関わらず」と言うかもしれない。
「様々な価値観」も「日本国憲法にもとづく様々な価値観」としたほうが良いかもしれない。

○中間答申についてのその他ご意見やご要望等の声

理念や構想は素晴らしく納得のいくものと思われるが、具体的な策が見えてこないのが心配。板橋区は防犯に弱い点が気になっている。街中への防犯カメラの設置強化を望みたい。地域のコミュニティで、実際の町内会活動は地域に差もあり、また役員の高齢化も進み、求められている活動とはかけ離れた催しで長会費も動いていると感じる。町会活動をオープンにし区が丸投げしないようにしてほしい。

- 具体的な目標・数字などがあるとイメージしやすいと思います
(例) ○年までに板橋区の人口を○万人に増加する(世帯数/人口)
- 東京都板橋区のメリット・ブランドの強味をより具体的に発信できればと思いました
(例) 東京都内の主要エリアに30分で行ける交通の便の良さ(都営三田線・東武東上線・JR埼京線など: 大手町、日比谷、池袋、新宿、渋谷・・・) 通勤者にとって生活が快適
(例) 東京都内で比較的物価が安い=生活しやすい(都内23区での具体的な比較データがあると良いのですが)
(例) 緑地・公園が多い(都内23区での具体的な比較データがあると良いのですが)・・・などを含めて総合的に生活しやすい・子育てしやすい・シニアが過ごしやすい・・・などのメリットを発信できれば伝わりやすいと思いました。
- 都市型農業の重要性
・板橋区の歴史の上で東京の農業を支えてきた経緯も含め、現在も都市農業の重要性があると感じています。
・農業従事者のみではなく、区民農園参加者と区民の接点など場が重要だと感じています(農業まつりに加えて、板橋区内に道の駅を設置して地場生産物の販売、子ども食堂に収穫物を提供するなど)
- インバウンド観光需要
・埼玉県川越市がインバウンド環境需要が高いと伺っています。東武東上線を利用する観光客も多いと想像します。
板橋区内にも「イバウンド観光客」誘致の施策を打ち出してもよいと考えています
(例) 東武東上線沿い 大山や成増・・・など
(例) 旧中山道 仲宿エリアなど(江戸時代の宿場町のテーマパーク的なもの) ※東北自動車道の羽生サービスエリアをイメージしました。

構想なので仕方ないと思いますが、具体策のイメージがわかりませんでした。

区外から見て板橋いいね、と言われるような取り組みを実施し、またそれをどんどん区外に情報発信していただきたい。
区民自身の評価に加えて、区外の人からのいい評価を聞くと、区民はより板橋の良さを再認識し、愛着が増すと思います。

P28の④ デジタル技術の活用による区政経営の高度化と区民サービスの向上についてデジタルデバインド対策について言及されていますが、デジタル技術の差はもとより視力が衰え、手が思うように動かせない高齢者にとって、スマホ(小さな画面)による電子申請等は、不便になる恐れがあり、十分な配慮が必要であると考えます。

子どもや若者について「学ぶ」「笑顔」「権利」など耳障りのよいフレーズが随所に記載されています。それはそれで否定しませんが、権利があれば「義務」も表裏一体です。法律等を遵守する、ルールを守る、人に迷惑をかけない、いじめや万引き、道交法違反をしない等の最低限必要なコンプライアンスもまた同時に厳しく説くべきと思料します。有体に申し上げますが、自宅のあるマンション内を嚆矢として、近隣の小中高生の不適切な素行には辟易しています。本来は親が担うべき責務ですが、今の親御さんからして全くそのレベルにありません。以前は目黒区在住でしたが、躰レベルの懸隔は言わずもがなです。以前、近くに芝浦工大附属中高がありました。男子校にもかかわらず、赤信号もきちんと守り放歌高吟もなく好感でしたが、有明に移転してしまい、尚更地元っ子だけの小中生の粗が顕著に目立つようになりました。子ども達には自由や権利がある一方でルールを守り人に迷惑をかけないことも住民として必要である旨、盛り込むべきと愚考いたします。

中間答申そのものについては基本的に妥当と考えます。一方、こうした取組が行われていることは本アンケートで初めて把握したところであり、区として広く意見を取り入れたいということであれば、もう少し積極的にアピールしていくことも考えられるかと思料します。個人的には、広報いたばしは(駅等に置かれているのは知っており、時折持ち帰ったりもするのですが)各戸配布としてもよいのではないかと考えます。

構想、答申の内容としては良いと思います。

ただ具体性がない…と言ったら申し訳ないですが、例えばそれはこういうことですよ…ということが具体的にイメージできる内容も（事例として）記載するとより良く伝わると思います。

そのためには、各項目・取り組みの現状はこういう状況です、こんな内容がありますということを、例えばですけど、今の板橋はこうですよ…という内容をまとめたものを別添（補足）資料として用意して、併せてPRされてはいかがでしょうか。

そうすれば、今の板橋はこういう現状、それを受けてこういう取り組みを行って行って、未来の板橋へと繋げていく…というストーリーというか、流れがよりわかりやすく皆さんに伝わると思います。

（今と未来を比較しやすいかと思いました。既にそのような資料があるのでしたら恐縮です）

板橋区に20年以上住んでいますが、住みやすい街だと思いますよ。野菜などの生鮮品、物価も他に比べて安いですし。（私が住む坂下・高島平地区は特に安く感じます）

三田線、東上線のおかげで池袋、新宿、東京にも出やすく、新幹線や羽田からの飛行機での移動など交通の利便性、即時性もあります。東京駅始発ののぞみにも乗れますから。

荒川にも近いので、休みも晴れたら土手で遠くを眺めてぼーとできたりします。都内でも緑が残っているエリアではないでしょうか。夏の花火も知られるようになりました。

ひとつひとつのキーワードを集めていくと、板橋区が全体として、より良い街、住みやすい街、住んでみたくなる街としてより具体的にイメージしやすくなるのではないのでしょうか。

私は今年から板橋区の区政モニターとなりましたが、初回に皆さんで集まった時のワーキングで、板橋の良いところを書き出してみましよう…という（楽しい♪）取り組みがありました。

同じことをもっと規模を広げてやってみて、別冊としてまとめて、未来へのビジョンを出す際に今の板橋の良いところも併せてPRすると面白いかもしれませんね。それが未来の板橋により繋がっていくような気がします。これからの板橋区の内部での議論の結果を楽しみにしております。

今回、考える良い機会をいただき、ありがとうございました。

ずっと板橋区に住んでいて、近くに会社は確かにありますが、板橋区が光学のまちや絵本のまちであるといったイメージはなかったもので、これで押すのであればもっと地域に根差した産業であることの宣伝が必要だし、自由に見学できるなど、体験することで身近に感じられる要素があると良いと思います。緑の街だけれども公園は樹木の老化で伐採が進み、見通しが良くなっています。虫の発生や落ち葉の問題があるのだと思いますが、街路樹もはげ坊主な時があって、街路樹として存在する意味があるのかと疑問に感じます。

三つの基本理念、九つの基本構想ともに理想的な将来像が描かれていて良いと思いました。

時折出てくる、欄外の説明を読まないといけないカタカナやアルファベットの言葉は、苦痛でした。

「あたたかいところ」や「こころの豊かさ」等は人それぞれで基準が全く異なると思うので抽象的すぎて難しいと思いました。

基本構想の九つが多くて覚えきれませんでした。

この書類が届いて、今まで20年以上住んでいたのに板橋区のことを何も知らない事が分かりました。また、団地にいる方々と話しても文面の内容は話題にありませんでした。今年に入ってから高島平の再開発を知ったくらいです。

単語の意味・統計など、初めて図書館のパソコンの板橋ニュースを読んで調べました。板橋ニュースはわかりやすかったので、もっと多くの住民に見てほしいと思いました。

板橋区基本構想は、区の目指す姿、区民それぞれの将来像が記してあり、私のような普通の一般区民が初見でもわかりやすく作られていると感じました。

ただ方向性が多様で多方面に広がるものなので少し散漫というかぼんやりするところもあり、方針にもあったように具体的な実施計画、アクションプログラムが理解へのステップとなり個々が認識してようやく実現への一歩となるように思います。

今回読ませただいてこのような将来像を描いていたりすることも知らなかったですし、自分自身が「区民意識」をさほど感じたことがなかったことに気づきました。

このような小さな気付きや当事者意識につなげて考えるきっかけをつくったり、日々の生活におわれて目標を忘れがちになるところに「板橋区はこうですよ」という確認を繰り返しこの構想をどのように周知させるか各方面でのアクションまで落とし込み一人ひとりが区民として参加してもらうことが実現にむけて動き出せるのではないかと思います。

板橋区基本構想中間答申を読む限り、より良いベクトルに向いていると思いますが、どこまで具現化できるのは区民一人一人の意識だと思います。

なので、より多くの情報を発信するのが大きなポイントであると思います。

地域の中核となる都市造りも基本構想に入れて頂ければと思います。
板橋区は核となる地点が少ない、分散している、弱い、等の理由で多くが区外で用を足す必要があります。就労や買物、娯楽等多岐に渡って区外へ求めざるを得ない状況であり、その様な事が板橋の希薄化に繋がっていると感じています。板橋区には集中する電車/地下鉄の交差点が無く、一点の中核造りは難しく又不便である為、世田谷区や大田区のように区内に幾つかの中核が出来、其処で様々な用を足せるようになるといいと思います。

区民ひとりひとりが、主体的に板橋区を継続させようと考えてもらえるための取り組みが重要だと思う

④デジタル技術の活用による区政経営の高度化と区民サービスの向上に関しては、どうしても役所関係のアプリは評価が低いことが多いので、場合によっては外部機関を頼りながら利用者のストレスのないようにしてほしい。デジタルのみではなく、デジタルとアナログを併用していくことも必要なのではと思います。

概ね10年後の将来像については、明るい内容で非常に結構です。
ただ、現状では幾つもの難しい課題、障害があり、それをどの様に解決して進んでいくのかがここには記載されていませんので、各政策の取り組みについての満足度を聞かれても答えようがないと思います。例えば「基本構想の背景」に「地域コミュニティの担い手不足や孤立化」と書かれていますが、これを解決・改善した上でないと、板橋区が目指す10年後の将来像には辿り着けない訳で、この解決策をセットでないと評価できないのではないのでしょうか。

- ・カタカナ語が多様されていなくて良い。
- ・わかり易い言葉を並べているが、返って具体的なイメージが沸きにくい。
- ・理解するのに何度も読み返す必要があった。答申ではppt等を用いると思われるので、今後参考にできればありがたい。
- ・その他；なぜ9つなのか、「緑と文化」とあるが、商業区であることから緑の部分はあまり感じられない、マイルストーンがあると良い、ないと結果の評価が難しい。

今後に向けての新しい技術の導入によって住みやすい街作りに向っていると感じました→今後の具体的な施策に期待しています 定年後街歩きをしていると区内の南側に住んでいるせいか北側方面への行きづらさを感じます→区内の人の流動を意識した施策も盛り込んで頂ければと思います。

1. 「子ども・若者・子育て世代が住みたくなるまち」(子ども・若者)の基本計画構想において
施策の在り方にある「すべての子どもが安心・安全に成長できる体制の強化」「子育て世代のニーズに沿った安心して産み育てられる環境の整備」は、板橋区の未来の根源となる事柄と考えます。特に若者世代の子育てに向かうための環境づくりが、未来への一番の内容と思います。
板橋区基本構想審議会中間答申参考資料の図表2-3「未就学児・小学生の子を持つ親の就業状況」のグラフにあるように多大多数は、フルタイム勤務の若者が「共稼ぎ」により世帯を持つことができるという結果と思います。

「フルタイム勤務」かつ「共稼ぎ」の若者で、今の日本の高物価で賃金の上がない状況、そのなかで都内に住むとなると子供など時間的にも経済的にもまったく余裕がないという結論になってしまいます。こういった世代の若者に対し、子供をぜひ持って育て欲しいというには、社会的な支援は必須です。2DK以上の居住空間、0歳からの保育費用の支援、保育園の増加、子供の預かり時間の延長制度などを含めた社会子育てインフラは都市部にこそ必要で、国の出遅れを板橋区は少しでも支援していくという方策を切に議会の皆様には政策化として議論を進めていた頂くことを望んでおります。

令和5年度の板橋区の一般会計歳出では、福祉費として約1429億円が使われておりましたが、施設介護給付、自立支援給付の増加であると報告されています。板橋区基本構想審議会中間答申参考資料から図表4-4「生活保護世帯の世帯累計別推移」を見ると明らかに高齢者対策は増加していることは理解できますが、「安心して住み慣れた地域で暮らせるまちづくり」、「接続可能な介護サービスの供給に向けた基盤整備・人材育成」や「生活困窮者・生活保護受給者に対する個別的・継続的な自立支援の推進」により自助努力を促し、予算や投資を増やさずに効果的な運営施策にし、前述の若者世代の区内への定着、子供の誕生・育成への支援予算配分を検討していただきたいです。

2. 「地域で支え合い安心・安全に暮らせるまち」(防災・危機管理)
板橋区の掲げる「自助・公助・共助」での取り組みがこの答申案にも盛り込まれており、安心しております。地域の防災訓練などで有事で自主的に動けるように自治会でも顔を合わせては確認しておりますが、どうしても地域の住民では解決できないことが、昨今の異常気象です。ゲリラ豪雨、異常な暑さ季節外れの大雪など、短期的な被害が拡大し人命も危うい事態もある事柄です。道路や電線、下水路、商店街の日除けや街路樹など、くたびれたインフラでは解決できない内容と思います。、長期的な方策や取り組みを含めビジョンに反映していただけることを切に期待します。

ちょっと難しいことはわからないけど、私が思うに、板橋区は老人がおおいので、街のいたるところにベンチなど休憩できる椅子をつくり、いたるところに花壇とか植物を植え、誰もが街にでてこしかけて若者も老人も話せる空間になれるような街にするべきだともう。
子供子供って、産まない人達にはなんだかなあ〜という感じです。

デジタル化の取り組みについても、もう少し取り組みに触れても良いのかと思う。年配のかたと若者とが交流のきっかけづくりにもなれば、活性化にもつながるし、思いやりのあるまちづくりの一つにもなりはしないだろうか。

かかっていることはとても素晴らしいと思います。中間答申ということなので、今後具体的な取り組みが出てくるのだと思いますが、具体的な取り組みがないとコメントしにくいです。

子ども・子育て世代が住みたくなるまちでは、今、ボール等を使用してはいけな公園が増えており、公園でゲームやスマホを使用しているのを見るとさみしい気持ちになります。
小さな子供が安全に遊べる公園があるのは大事ですが、野球やサッカー等、ボールを使用して全力で遊べるような場所があってもいいかと思います。子どもたちがいい意味でうるさい環境があって欲しいです。又、地域で支え合うという事に関しては、昔ながらの近所付き合いがない家庭もあり、どういう人が住んでいるか知らない事もあるので、何か顔を合わせるきっかけがあるといいなと思います。（町会でのイベント、子どもがいる家庭は学校でのイベント等…）
災害時の被害を最小限に留めるための町づくりに関して知らない事がありすぎるので、もっと安心・安全なまちが実現している内容などを広めて欲しいです。

大山地区の大規模改修後(10年後)が今より住みよい街にする為に、自治会の活動を促進する。町会活動に若い人(会社員)でも参加できる措置が必要かと思う。

どんな手順でも手法でも構わないので 住みやすく故郷と感じられる板橋になってほしいです。

板橋1丁目は板橋区の端であるため、文化施設、緑の豊かさ、公共施設いずれも利用に不便を感じており、隣接の豊島区、北区の施設の方が利便性が高い状況。転居しながら板橋区には文化施設がないものと思っていたところ、調べると区内中央の方には充実した文化施設があり、緑の多いことを知った。しかしながら、区内中央は生活が区内に収まっている分には非常に良いところと感じるが、都心への移動となると交通の便が必ずしも良いとはいえない。現在板橋駅前を再開発中であり、板橋区の魅力を発信するにはこのエリアの充実が欠かせないのではないかと思う。

「東京で一番住みたくなるまち」の新たなステージに向け、「SDGs戦略」「DX戦略」「ブランド戦略」の3つを柱とする重点戦略のバージョンアップに取り組んでまいりました。と、ありますが、どうも他の区と比べると魅力が伝わってない感じがします。特に板橋駅前は池袋から1駅とは思えません。現在、再開発も進んでいるようですがお店を出店しやすくするなどもっといろいろなお店を増やして活気を出して貰いたい。

「住みたい」「住み続けたい」と思える持続可能なまちを実現しないと近い将来人口減少、高齢化が進みます。

まずは、23区の中で最も住みやすく価値のある区にすべく板橋ブランドの確立が急がれます。

今、板橋区の売りは「大山商店街」これを戸越銀座みたいに観光客が来るように板橋名物の何かを育成する事が必要かと。

資料の内容についてというより、自分自身が40年以上も住んできた地域の区政のことはみじんも意識してこなかったことに気づかされました。他の地域をあまり知らないということもあり、これが充実しているのか、そうでないのかの区別もつきません。または意識しないで今日までこれたということは、たまたま問題に直面しなかったということかもしれません。生活地域として考えたら、安心して日々暮らせることが一番なので、改めて考えてみたい契機になりました。すみません。

板橋の目指す姿とする理念が9つとあるが、それら全てを達成しようとするすると全てが中途半端な状態で終わってしまう可能性があることが危惧されると考えられる。

9つの中でも区民のニーズを把握して達成の優先度をつけるなどした方が、すべてが中途半端に進行するよりも成果も見えやすく良いのではないかと考えた。

区民のニーズに応えるとありますが、区民のニーズはどうやって知るのでしょうか・

若者の政治無関心が問題となるなかでもしっかりと若者の意見を取り入れなければ真の区民のニーズは知ることではできず、9つの目標にもあがっている若者、子供、子育て世代が住みたくなる街は達成できないと思いますしそれは他の目標の達成にも影響を大きく与えることだと考えられます。少子高齢化が進む中で板橋区内の出生率、児童の割合を増やしたいと考えるならば次の子育て世代となる若者の声を重視し、それらの人のニーズを知る具体的な方法を考える必要もあると考えます。

答申を拝読すると、子育て、若者などにフォーカスしているのですが、現実はお年寄り向けの施策が多い気がしています。ふれあい館、グリーンカレッジ、お祭りなどでもお年寄り向けのコンテンツが多い印象です。板橋区は街を歩いてもお年寄りばかりだと言われることもあります。子供達や若者に向けて、教育や教養を育むようなプログラムを作ってほしいと改めて、答申を読んで思いました。それが板橋区が輝くためには必要なことだと感じます。

子どもにとって安心して過ごすことができる板橋なら、他の世代にとってもよい板橋になるでしょう。

川まちづくりの計画が進んでいるようですが、人間が手を加えずに自然をそのまま残すことが重要と考えます。子供達に花や木や虫や鳥たちを見る機会を与えてもらいたいと思います。豊かな自然が豊かな心を育むと思います

板橋ブランド確立に向け、その素材となる魅力は複数有していると感じています。歴史、文化、自然、まちのにぎわい等、いろいろと要素があると感じています。一方で、それら1つ1つが、現在のまちの中に埋もれてあまり目立っていないようにも感じています。それぞれを粒だたせることができないでしょうか。(エリアとして特徴を強めるなど)

板橋ブランドという単語が出てきておりますが、今後を見据えたとき、個人的には当区のブランディングは極めて重要だと考えます。一方、「絵本のまち」としてのブランド戦略や、スマートシティの取組を通じたイメージの向上という内容は今一つ弱いように感じられます。実際、私自身も住んでみるまで当区のイメージは高島平団地がある程度しかありませんでした。住みやすさ・安全・豊かな自然・都心への良好なアクセスといった地域に愛着を持つインフラが十分あり、質の高い生活を送れる地域である一方、イメージの薄さで損をしているのが当区の実情ではないかと常々思っております。中長期的に、板橋といえばここである、といった戦略的なブランド地域の設定、ランドマークの設置といった街づくりが必要ではないでしょうか。尚、それらは都心に乱立して既に飽和状態とも思える森ビルによる無機質で巨大な開発地域ではなく、吉祥寺や原宿の裏路地であったり渋谷の雑踏のような、小規模で多様な商業施設の集積であるべきと考えております。都心の区が開発で整理されることで失われつつある人々の集い易い活気ある雑踏を戦略的に作る取り組みはどうでしょうか。

板橋区は穏やかで住みやすくとともに気に入っております。ご尽力にいつも感謝しております。さて、基本方針に異論はありません。どれも全て誰もが共通認識として持っている内容です。さらに踏み込んだ具体的な提案が欲しいです。さて、具体的施策が特に欲しいものとして外国人問題につきまして要望をお伝えします。今後重要になるように思います。コロナ後さらに国際化が進み、ものすごくたくさんの国からたくさんいらしていると感じます。通りを歩いていて半分以上外国人と思うこともあります。皆さん穏やかで恐怖感はありませんが、たまに集団をなしていることもあり、不安を感じることもあります。そして、確実に無視できない割合になっています。私が問題に思うのは、言語や文化の違いでコミュニケーションの対象外になっている人が急速に増えていると感じることで。隣人である限り知る努力をし、隣人が何者であるかの情報を持つことは治安維持に役立つと思います。私が参加する常盤台東町会では、秋のお祭りの時は、外国人の方もどんどん招き入れて、関わりを持つように心がけていますが、それ以外手立てがありません。ヨーロッパやアメリカにおける移民問題のような、隣人間の危険な分断が将来生まれないか心配しています。互いに安心できるコミュニケーションを保つ方策があれば問題抑止に良いのではないかと思います。港区、北区など、外国人の多いエリアで取っている効果的な方策はあるのでしょうか。かつて隣人に関心のない人達が問題となりましたが、今後は関わりたくても関わりを持ちにくい隣人が社会問題になっていくと思います。また、町内会の在り方について、あらゆる世代を繋ぐコミュニティ団体となるようイメージを変えていけたらと思っています。機会がありましたら要望提案させていただきます。

全ての答申において概ね実現されているのではないかと思います。子育て、医療、福祉などについては我々がもっと一つ一つのことに目を向けお互いに支え合っていこうという思いが深まっていけばさらに寄り良い町や関係が出来上がっていくのではないかと思います。また災害関係についてもハザードマップや見込まれる災害状況などの地図がありますが、それをあまり見ず準備などができていない世帯やそもそも見ない人達もいると思うのでSNSなどを通じた定期的な発信と注意喚起があれば若者はさらに対策がいかに重要なのかを知ることが出来ると思います。

未来ある子供を健全に育てる事は、重要ですが、子供が欲しくても出来ない夫婦の事、ここまで頑張って働いて来た老人も見捨てないで欲しいです。
巷では横のつながりと言うのが中々隣り近所でも難しく、どうしたら、気軽に話せる機会を作るか、考えていただけたらと、バタバタしたいわけではなく、うまく表現出来ませんが、こういう小さいつながりも大事なのではと感じます。

北海道から小学五年生時に板橋区へ越してきた四十代女性です。板橋区で私自身が教育に触れ、また子供も板橋区の学校に通学しており親目線でも板橋区の教育を拝見しております。保育園では緑のカーテンの取り組みを知り、小学校でのあいキッズと一緒に子育てを応援していただき働き母親としてとてもお世話になりました。“誰一人取り残さない”を体現されていると思います。また、小中学校では一貫した教育により中学一年生を“七年生”と呼ぶのがとても新鮮でした。部活動においても、子供のためだけではなく働く教師の皆様の勤務時間等への配慮も素晴らしいと思います。
多くの今後十年の想定がありましたが、息子にとっても我々世代にとってもとても魅力的に感じました。一方で、親世代やそれ以上の高齢者の生活や住む場所・療養する場所において興味がわきました。（今現在私自身がその世代の情報に触れる機会がなく、知らないだけかもしれませんが）今後超高齢化社会になるなか、多くの人口を占めるようになる世代への“今後の十年”も気になりました。

誰もが安全安心で暮らせるまちを目指す件について、街の利便性向上のためにユニバーサルデザインを適用していく点については同意できるのですが、多様性が増えていく=ルールの多様化は避けられないと考えており、それに伴う一定のモラル低下や犯罪率の上昇などの懸念にはもう少し慎重になっても良いのではと考えます。
実際のところ、最近の成増はMEGAドンキが設立されてからの外国人・他地域住民の流入が激しく、従来の穏やかな成増の雰囲気から離れ始めているように感じます。
柔軟に変えていくのも手ではありますが、元からある板橋区の良さを変えずに伝えていく方面も積極的に進めて貰えたらと思います。
またデジタルが発達してきた今、伝達をSNSなどに頼る方法もありますが、自分からアクションを起こさないと情報を吸収できない割合が多いように思います。逆に、何気に見る掲示板や通りがかったらイベントがやってたなど、実際に目にして初めて認知するケースが1番印象に残ると感じます。
ちんどん屋でもマスコットキャラクターによるイベントでもなんでも構いませんので、区と住人が直接繋がれる機会の増加をお願いしたいと思います。

高齢者の安心して暮らせる地域づくりの実現を是非進めてほしい。具体的には、気軽に集える施設、又、介護が必要になった方達やその家族が安心して入所できる施設が少ないので充実を図ってほしい。

29/32 子ども・若者・子育て世代が住みたくなるまち

→これはどの区も重点的にそしてスピーディに取り組む課題の1つだと感じます。

これまで板橋区の様々な場所を徒歩で・自転車で・電車で・車で移動してきましたが、

①開かずの踏切が除去できていない ②通学路のガードレールの未設置 ③危険な電信柱の除去（道路側にはみ出ている・劣化）など

事故に繋がる危険が板橋区には多数存在しています。身近な安全対策を期待します。

29/32 学びを通じて成長と幸せを実感できるまち

→区全体の図書館のクオリティが低いように感じます。

山梨県立図書館を一度視察しに行ってみてください。

この規模を図書館を区内の主要駅付近に設置したら、区民から喜ばれるかと感じます。

趣旨・改定の背景については理解したつもりです。ただ、現基本構想の基（この10年間）で何がうまく行き、何が不足だったのか、抽象的な表現のため今一つ分りにくく感じます。

板橋区に居住したことがある友人と話をする時、口々に「板橋区は住みやすい」「子育てや福祉・介護の手当てが厚い」と言います。私もそう感じます。その反面、マンションの増加による地域住民の交流減や、個人商店の減少による商店街の衰退も、日々実感しています。産業や都市づくりについて、住民や企業者の意見を多く取り入れていただけたらと思います。

板橋区は23区の中で緑も多くまだ、外国人にも荒らされていない区だと思う。30年後もせめて今のまま現状維持ではあってほしい。無駄なタワーマンションや、区の税金が必要なのはわかるが不法移民に占拠されないようお願いしたい。

9つのめざす姿は共感しております。ただし、実現できるのであれば当然異論はない、という内容であり、裏を返すと他の区にはない、板橋区の尖った魅力を伸ばし創出していくというふうには捉えられませんでした。何をしないか、という点も明らかにしていただけたらと、何を狙っているのか、区民も理解できます。それに反対意見があれば、建設的に議論するのが良いと思います。



いたばし・タウンモニター いたばし・eモニター 令和7年度 第1回アンケート結果報告書
次期板橋区基本構想中間答申への意見について

令和7年 7月発行

刊行物番号
R07-40